昆蟲部

AGR. EXP. ST.
NO. 50.
DIV. ENTOMOLOGY

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

大正七年三月

臺灣に於ける黄麻

臺灣總督府農事試驗場

出版第一二六號

430.34
4322
n.126

臺灣に於ける黃麻

目次

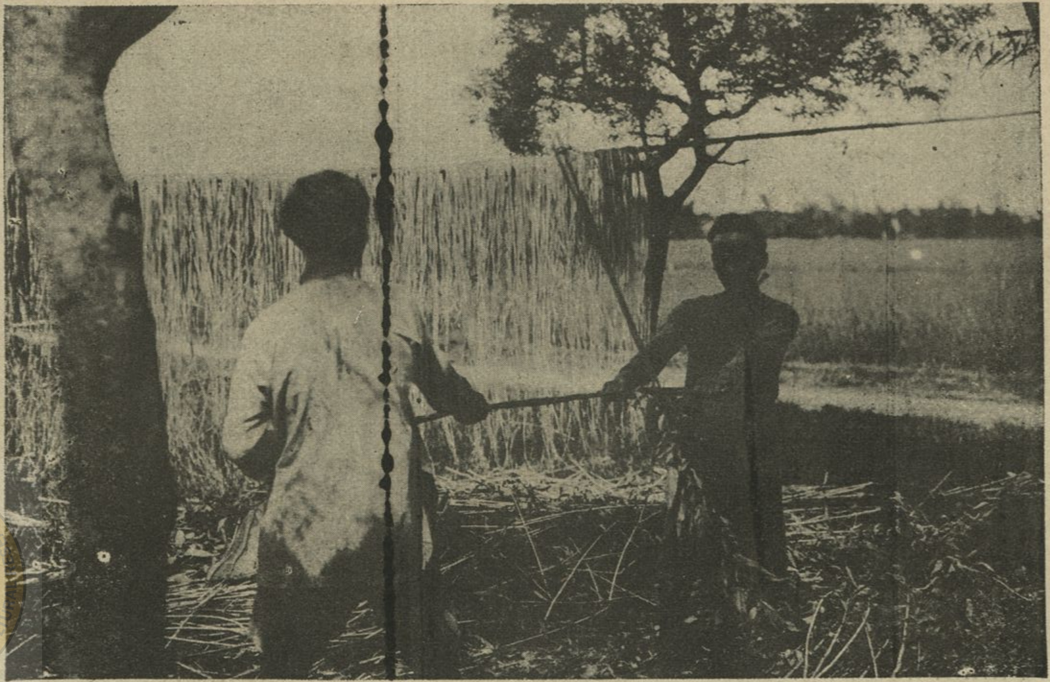
第一章　緒　言……一
第二章　經濟的位置……二
第一節　由來及產地……二
第二節　用　途……三
第三節　臺灣に於ける黃麻產額……四
第四節　需要供給……一〇
第三章　黃麻の特性及品種……一四
第一節　性　狀……一四
第二節　纎維の狀況……一七
第三節　分類及品種……一八
第四節　臺灣に於ける品種の分布……二一
第四章　天然的要素……二二
第一節　氣　候……二二
第二節　地形及土質……二四
第五章　臺灣主要產地に於ける黃麻栽培法……二四
第一節　當場に於ける黃麻栽培法……二五

農業部農業試驗所典藏
由國家圖書館數位化

第二節　嘉義廳下に於ける黃麻栽培法……………………………四七
第三節　臺中廳下に於ける黃麻栽培法……………………………五五
第四節　臺南廳下に於ける黃麻栽培法……………………………六一
第五節　南投廳下に於ける黃麻栽培法……………………………六六
第六節　印度に於ける黃麻栽培法…………………………………七〇
第六章　臺灣主要產地に於ける黃麻纖維製造法…………………七三
第一節　當場に於ける黃麻纖維製造法……………………………七四
第二節　嘉義廳下に於ける黃麻纖維製造法………………………七七
第三節　臺中廳下に於ける黃麻纖維製造法………………………七九
第四節　臺南廳下に於ける黃麻纖維製造法………………………八〇
第五節　南投廳下に於ける黃麻纖維製造法………………………八〇
第六節　印度に於ける黃麻纖維製造法……………………………八一
第七章　臺灣主要產地に於ける一甲步當黃麻栽培製造收支計算…八三
第一節　嘉義廳下に於ける一甲步當黃麻栽培製造收支計算………八四
第二節　臺中廳下に於ける一甲步當黃麻栽培製造收支計算………八七
第三節　臺南廳下に於ける一甲步當黃麻栽培製造收支計算………九三
第四節　南投廳下に於ける一甲步當黃麻栽培製造收支計算………九六
第八章　結　論……………………………………………………一〇一

黃麻の製纖（其一）

木質部分離



黄麻の製繊（其二）

表皮剝離

臺灣に於ける黄麻

本篇は前臺灣總督府農事試驗場技手細田勝次郎の在職中報告せしものなり。

第一章　緒　言

臺灣産纖維作物中黄麻、苧麻、草棉、棕梠、七島藺及大甲藺等數種ありと雖、二千甲歩以上の栽培面積を有し三十萬圓内外の年産額を有するは黄麻の右に出つるものなし。今本島に於ける黄麻栽培區域を觀るに澎湖列島を除き全島各地に亘り其作付面積及産額中最も多きは嘉義、臺中、臺南等中南部地方にして、北部地方に至るに從ひ漸次減少するを見るべし。之本作物栽培上土地氣候等の不適當なるにあらずして稻作を主とする關係上田畑耕地面積の配當一方に偏せるに基因するか如し。

方今本島に於ける殖産界の發展に伴ひ黄麻製品を必要とする米麥其他輸移出用産物比年增加するに至れり。然るに本島産黄麻の産額と云ひ黄麻纖維製作工業と云ひ尙未だ幼稚の域を脱する能はずして之が需給圓滑を缺き、不足の原料及製品を島外輸移入に待たざるべからざるの現況なり。之を以て本島黄麻作は將來那邊迄之を改良發達せしめ得るやは今直に論斷することを能はずと雖　之が現況調査をなすは本問題解決上確かに好資料たるべく又當場に於ても參考資料を蒐集するは試驗施行上必要なるを以て昨大正五年八月官命を帶ひ本島黄麻主要産地なる嘉義、臺中、臺南及南投廳下に於ける黄麻栽培調査を遂行せり。以下當場數年來試驗せる成績を併せ順次記述せんとす。兩者比較對照せは其間の逕庭甚大なるを知るのみならず本島に於ける黄麻栽培法は將來尙幾多改良すべき餘地あるをも確かめ得べきなり。

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

本論說く處甚杜撰未だ十分盡さざる點多々ありと雖若し夫れ當事者及當業者の參考ともなり且將來本島黃麻作改良奬勵の方針劃策上參考資料の一端ともなるを得ば余の光榮何者か之に過ぎんや。

終りに本論編纂に當り深厚なる同情と好意を以て圖版其他多大の材料と助力とを與へられたる技手澤田兼吉氏に向て謝意を表す。

第二章　經濟的位置

第一節　由來及產地

黃麻は和名ツナソ、カナビキオ、イチビ本島土名ウンマ（黃麻）ソアンモア（山麻）英名 Jute 又は Gunny fiber Plant と稱す又 Egypt 及 Syria 地方にては煮食用植物 (Pot herb) として蔬菜に供用するより之を Jew's Mallow とも云ふ學名は Corchorus Capsularis L. Corchorus olitorius L. と稱し田麻科に屬せり。Jute の語源は Sanskrit の Jhat (to be entangled) を英語體に綴字せるもの Gunny は同じく Goni（袋）より來りたるものにして、一七九五年 Dr. Roxburgh 氏 East Indian Co. に送れる書翰中に始めて Jute なる語を用ひたるものなりと云ふ。

黃麻は印度にて古代より之を栽培し來れるものなりと雖纖維作物として世界に賞用せらるゝに至りしは實に十九世紀にして一八二八年印度總督の Custom-house Records にて始めて之を公にしたるを以て嚆矢とす。如斯を以て黃麻の原產地は之を印度北部地方なりと見做し同地より漸次東遷し馬來人及支那民族によりて栽培せられ、後歐州に傳播せられたるが如し。卽ち一七九三年 East Indian Co. は Pat. の名稱下に種子十頓を英國に送致したるか如き、又一八六九―一八七〇年米國農務局は印度より種子を輸入し之を South Carolina, Florida, Texas. 地方に栽培を試たるか如き記載によりて

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

推知するを得べし。而して本島に於ける黄麻栽培の由來又久しくして何れの時代に輸入せられたるや記録の徵すべきものなきを以て明かならずと雖思ふに支那民族の本島へ來往の際支那南部地方より輸入したるものならんか。

現今世界に於ける黄麻産地として有名なるは印度にして就中ベンゴール、東ベンゴール及アッサム地方は印度に於ける主要産地なり其他の栽培地は Brazil, French Guiana, Mexico, Cuba, Jamaica, Africa, Congo, Algeria, Persia, Madagascar, Mauritius, Burma, Ceylon, Celebes, Java, Sarawak, Philippine, Newguinea, Togo, Kamerun, Australia, Malay, Siam, Annam, Cochin China,China, China Hongkong 臺灣及日本等なりとす。

第二節　用　途

黄麻粗製纖維即ち本島在來製造法に依りて得たる纖維は主として索繩用に供せらる。其他粗麻布、黄麻袋(布袋)疊表、莫蓙類の經糸及結縛用として使用せらる。浸水法により得たる精製纖維は麻糸、ヅック及ガンニー袋製織用に供せらる。而して製造の際副産物として生ずる麻稈は燃料、松明として或は十日間位浸水乾燥後水煙葷（水を盛れる本島人及支那人の用ふる水煙吹と稱する一種の吸煙器にて吸煙の際煙草の煙は一旦盛れる水中を通過し來る如くに裝置せるものなり。本器を用ひ吸煙するには粗紙を適宜捻りたるもの即ち水煙葷に一度點火し置き必要の都度強く吹きて火焰を生せしめマッチの代用に供す）に代用すへく、又之より生する灰は懷爐炭及火藥製造用に供せらるゝことあり。其他新葉未だ硬化せざるもの及嫩梢を摘み取り一部本島人之を蔬菜代用として食用に供することあり。又葉を水中にて十分揉み碎き浸出せる液汁を以て男女の頭髮を洗滌し石鹼代用となすことあり。其他外國に在りては穀物類、珈琲、砂糖綿及毛類包裝用袋、粗絨氈、麻布、麻糸、麻

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

縄、綿糸混合用(漂白後)及紙 (Finest linen Paper) 製造用に供せられ種子は良質の油を搾り油粕は家畜飼料に洪せらる。

第三節　臺灣に於ける黄麻産額

最近五箇年間に於ける各廳別黄麻作付面積産額及纖維概價を示せは次の如し。

(一)　臺灣に於ける黄麻作付面積

廳別	四十四年 (甲)	大正元年 (甲)	大正二年 (甲)	大正三年 (甲)	大正四年 (甲)
臺北廳	一七三・三八	一三七・六一	九三・八〇	二〇三・一九	一一〇・三七
宜蘭廳	一六〇・五五	一六四・三六	二一〇・三三	一六三・六〇	一六八・九九
桃園廳	二八・七九	五〇・二一	五九・五八	六三・〇〇	五九・三五
新竹廳	二三一・二五	二〇八・九二	一七五・二一	一六四・五四	一七三・九五
臺中廳	四三二・二六	五〇七・〇七	五八四・三三	五六五・六二	四二八・三七
南投廳	一〇六・八三	一一六・三三	一六八・二三	一七八・五四	一四七・一五
嘉義廳	五二六・三〇	五八七・八四	八三二・六七	一、一三八・七三	九九八・三三
臺南廳	二四一・九一	二六九・九八	二〇三・三六	二三〇・四七	二五六・〇九
阿緱廳	二四八・六一	二三四・八四	二一〇・一〇	二五六・五七	二四〇・九〇
臺東廳	八・七五	二・三〇	二・〇三	二・〇三	五・六〇
花蓮港廳	一四・七〇	一七・九〇	三五・四〇	七四・〇〇	九三・九〇
計	二、一七三・三三	二、二八七・三六	二、五七四・〇三	三、〇四〇・二九	二、六八三・〇〇

(二)　臺灣に於ける黄麻纖維産額

廳別	四十四年 (斤)	大正元年 (斤)	大正二年 (斤)	大正三年 (斤)	大正四年 (斤)
臺北廳	四一六、一七三	三五五、九一九	二〇三、一一九	二九四、四三一	二二〇、五九二

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

宜蘭廳	二九九,四二三	三〇八,一六三	四三五,一〇六	二八五,〇五七	三四一,五〇五
桃園廳	四八,六〇五	三四,三三二	五八,三〇六	七〇,三九一	六五,一八二
新竹廳	一三二,九五七	一一八,四七八	一〇二,四〇二	九九,一三九	一〇四,六四七
臺中廳	七七九,七二三	一,五三一,三〇〇	一,六八八,九八八	一,一九二,三九九	八二一,八〇五
南投廳	一九八,八二六	二九七,一八四	三二五,三三一	四二〇,七九〇	四四八,三九九
嘉義廳	七四四,五三五	六七六,一四八	一,〇一一,三八九	一,三二四,四八二	一,二三六,五二七
臺南廳	三四五,四五三	二七九,九九九	二四二,二一三	三〇二,三一五	三二九,三三一
阿緱廳	四九六,三〇五	四一三,二三五	二九〇,四八四	三六九,七〇九	三六五,七〇一
臺東廳	二八,五三〇	四,〇四九	一二,〇七〇	一二,〇五〇	一三,〇九〇
花蓮港廳	一一,八二四	一七,二一八	五三,一四〇	一一九,六六〇	一一四,九〇〇
計	三,五〇二,三五二	四,〇三六,〇一五	四,六二一,五三八	四,四九〇,三二三	四,〇六一,六七九

（三）臺灣に於ける黃麻纖維概價

廳別	四十四年 円	大正元年 円	大正二年 円	大正三年 円	大正四年 円
臺北廳	一九,二〇二	一八,三二三	一四,四二一	二三,七〇二	一四,八二四
宜蘭廳	一三,八一五	一五,七七八	三一,〇二三	二二,九四七	二二,九四九
桃園廳	二,二四三	一,七五八	四,一五七	五,六六六	四,三八〇
新竹廳	六,一三五	六,〇六六	七,三〇一	七,九八一	七,〇二三
臺中廳	三五,九七六	七八,四〇三	一三四,六八五	九五,九八〇	五五,二二五
南投廳	九,一七四	一五,三一六	二三,一九五	三三,八七四	三〇,一三二
嘉義廳	三四,三五三	三四,六一九	七二,一一三	一〇六,六二一	八三,〇九五
臺南廳	一五,九三九	一四,三三六	一七,二七〇	二四,三三六	二二,一三一
阿緱廳	二二,九〇〇	二一,一五七	二〇,七一三	二九,七六二	二四,五七五

臺東廳	一,三二六	二〇七	八六一	九七〇	八八〇
花蓮港廳	五四六	八八二	三,七八九	九,六三三	七,七二一
計	一六一,五九九	二〇六,六四四	三九,五一六	三六一,四七一	二七二,九四五

前表中作付面積最も多きは嘉義廳にして臺中廳之に次き臺南、阿緱、新竹、宜蘭及南投廳等相順次せり。以上主產地中廳外搬出額多く且良質纎維產出地として又本島黃麻主要產地として目せらるる嘉義、臺中、臺南、南投、宜蘭及臺北廳下に於ける黃麻栽培地方及產額狀態を各廳下堡別に示せは次の如し。

(一) 嘉義廳下に於ける黃麻作付面積

堡別	四十四年	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年
	甲	甲	甲	甲	甲
嘉義西堡	七三·五五	七五·三三	七一·〇二	一七一·八六	八三·二八
嘉義東堡	一三·四二	一八·二五	二〇·一九	二八·九三	三八·二一
大目根堡	一〇·八六	一一·二八	一一·一三	一一·三五	一一·三〇
打猫東頂堡	三·一五	二·七二	三·二四	八·五二	六·六五
打猫東下堡	九·〇五	六·八一	八·三二	一五·三八	一四·四三
打猫南堡	九·二四	一九·六七	七·五三	四六·四一	四一·五〇
打猫西堡	一六·九四	三八·四八	二四·九三	三〇·九〇	四八·五一
打猫北堡	九八·六〇	九三·七六	一四一·五五	一六七·三七	一八七·一〇
白沙墩堡	一六·八〇	二九·〇九	九一·七〇	七一·八五	二〇·四〇
大坵田堡	一九·七四	一七·八〇	八九·〇一	九九·五〇	八三·三七
他里霧堡	四〇·二八	六一·五六	九〇·九三	八〇·六〇	六八·一〇
斗六堡	四一·六九	一九·二三	二三·六六	二六·六九	三三·三七
溪州堡	五·九一	五·〇八	一·二一	一·七三	一·一九

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

西螺堡	二・六四	〇・二一	二・七六	一三・九九	六・四九
布嶼堡	一三・七五	一八・八九	一七・七〇	二六・七五	二九・三九
蔦松堡	五・七四	八・八七	六・二七	七・八〇	一六・一七
大榛榔東頂堡	一・二八	〇・八二	—	—	一・〇一
大榛榔西堡	一五・一九	三三・九五	一七・二〇	二九・五八	三八・一四
牛稠溪堡	一・三三	三三・八七	〇・七八	三・八三	一・七〇
柴頭港堡	四・九二	—	七・八二	一八・七六	一九・六〇
大榛榔東下堡	一・三三	一・二一	三・六〇	五・八五	五・八五
鹿仔草堡	—	—	二・五五	一・七〇	三・四五
大坵田西堡	一・一〇	〇・七七	二・五八	六・二八	二・八六
白鬚公潭堡	一七・九三	一九・〇五	二一・一〇	三三・五二	二九・六四
龍蛟潭堡	二三・五二	四六・〇〇	七八・二四	一一一・三三	七七・一八
鹽水港堡	二四・二七	二六・一六	四六・六四	六七・一〇	六六・〇七
太子宮堡	〇・一九	〇・五一	〇・一〇	六・四五	五・〇七
鐵線橋堡	一・九九	二・〇三	一・三五	二・一二	二・六一
哆囉嘓東頂堡	五・九六	四・八二	四・三〇	三・八一	五・三四
哆囉嘓東下堡	四・九八	二・四三	二・六四	二・八六	二・八一
哆囉嘓西堡	七・四四	三・七一	五・二〇	七・二五	七・三六
下茄苳南堡	一九・〇二	一三・七六	一四・四二	二五・一二	二六・九三
下茄苳北堡	一六・五〇	一〇・九三	一三・九一	一四・五五	一三・二五
計	五二六・三〇	五八七・八四	八三二・六七	一・一三八・七三	九九八・三三

(二) 嘉義廳下に於ける黃麻纖維産額

（二）

堡別	四十四年	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年
	斤	斤	斤	斤	斤
嘉義西堡	八〇,五二九	七七,八一六	四四,五二六	三九,三三〇	九八,〇七六
嘉義東堡	九,七〇八	二九,〇六五	二九,二一四	四二,七四二	五二,四一〇
大目根堡	八,〇七六	一一,九二九	一三,三三七	一四,五八六	一七,五四二
打猫東頂堡	三,九二九	四,一二四	三,七六七	七,四五四	七,四六五
打猫東下堡	五,三八七	一三,一九五	一三,七四二	一八,七五五	一九,三八六
打猫南堡	一五,七五〇	一五,八九五	八,三五〇	六六,八九三	七〇,四八四
打猫西堡	二六,三〇八	二五,一八二	四四,〇四〇	二八,五五〇	五五,五八六
打猫北堡	二六九,一五八	一九二,一二七	三四一,〇九五	三一一,三七〇	三三三,二三〇
白沙墩堡	二四,二〇〇	一五,七五〇	九八,六三〇	四八,六三〇	二八,八七〇
大坵田堡	一七,五七六	七,一四二	九二,八八五	四五,七三八	六三,八三四
他里霧堡	六三,四〇五	九七,八七一	九五,五七一	八八,五五一	一〇六,六〇六
斗六堡	三三,六〇八	一三,九五一	一九,八一三	二五,九〇五	二六,三五一
溪州堡	四,三七七	二,九九二	一,〇五〇	二,三三七	一,三六三
西螺堡	三,四四三	三,七〇五	三,七〇八	一〇,二二八	七,三七二
布嶼堡	五,三〇五	一八,九八二	一四,七二六	一四,八三四	一八,四三九
蔦松堡	二,五九三	二,六九三	一,二〇四	三〇	八,二九五
大槺榔東頂堡	一,三八〇	二〇〇	—	—	一,七四六
大槺榔西堡	一四,〇六一	一三,七三五	一三,八六〇	五,四七〇	二一,四九六
牛稠溪堡	一,九一七	二,九九〇	三四五	七八五	一,七七五
柴頭港堡	九,五一四	—	五,八二〇	三二,〇九一	二六,五七〇
大槺榔東下堡	六四〇	六一四	二,〇七〇	一,四九〇	一,三九五

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

鹿仔草堡	—	—	一、七五〇	七九五	五、九八〇
大坵田西堡	三五〇	四三六	一、七七八	二、三二九	一、〇六五
白鬚公潭堡	三五、一八一	二二、七八五	二二、三七〇	三二、九一〇	二七、〇八〇
龍蛟潭堡	三三、四五七	五〇、一一五	六七、四七〇	七四、九二五	六四、九四〇
鹽水港堡	三一、〇九六	一八、五〇一	二三、〇一三	五一、〇九三	八〇、六七二
太子宮堡	二一一	三五五	五〇	六、四五五	八、九一〇
鐵線橋堡	一、〇四八	一、一五一	一、一〇八	一、三六二	二、二二七
哆囉嘓東頂堡	三、一〇〇	一〇、一六九	八、九七〇	六、七五一	七、六二六
哆囉嘓東下堡	三、三五三	三、三二七	四、八一五	五、三三五	五、八四九
哆囉嘓西堡	四、八二三	三、〇七五	九、九〇二	一四、〇九〇	一六、三六〇
下茄苳南堡	一五、二〇八	九、一七六	一四、七二二	二九、六〇六	三二、三七七
下茄苳北堡	一五、八四四	九、一〇〇	一〇、六八九	一三、一九二	一五、一五〇
計	七四四、五三五	六七六、一四八	一、〇一一、三八九	一、三二四、四八二	一、三三六、五二七

（三）臺中廳下に於ける黄麻作付面積

堡別	四十四年 甲	大正元年 甲	大正二年 甲	大正三年 甲	大正四年 甲
藍興堡	一八・五〇	二〇・〇〇	一三・〇五	一五・八二	一七・三一
捒東上堡ノ内	二七・六四	二五・〇〇	一一・九〇	一六・二三	二三・五三
捒東下堡	二〇・〇五	二五・〇〇	二八・〇〇	二五・四七	一三・八四
苗栗三堡	一三・二七	一三・七一	一〇・〇〇	一八・一五	一九・七一
大肚上堡	八・〇〇	一〇・〇〇	一〇・三五	九・三〇	一一・六五
大肚下堡	一三・〇〇	四・〇〇	—	一・一五	六・五四
猫羅堡	八・〇〇	六・〇〇	六・〇〇	一三・二六	四・二七

線東堡	—	〇・二〇	—	—	—
馬芝堡	二二・三四	五八・九〇	五九・五五	四二・〇五	二一・六六
燕霧下堡	一四〇・六四	一四二・八〇	三〇・一一	三一・三六	二三・五三
武東堡ノ内	一七・九二	一六・三五	二〇・七二	一九・六五	一七・二二
武西堡	三八・五〇	三九・八一	三七・一四	五二・〇〇	五六・一五
東螺東堡	四〇・〇〇	四〇・三〇	一一八・七五	一〇一・五四	六六・三九
東螺西堡	五〇・七〇	八〇・〇〇	一六一・〇五	一八三・〇〇	一一九・〇〇
二林上堡	二三・七〇	二五・〇〇	二四・三〇	二二・八五	二〇・〇七
二林下堡	—	—	五〇・二〇	七・四〇	七・四〇
深耕堡	—	—	一・二〇	七・四〇	一・五〇
計	四三二・二六	五〇七・〇七	五八四・三二	五六五・六二	四二八・三七

（四）臺中廳下に於ける黄麻纖維産額

堡別	四十四年 斤	大正元年 斤	大正二年 斤	大正三年 斤	大正四年 斤
藍興堡	三七,〇〇〇	七〇,〇〇〇	四一,二六四	三九,六三〇	三七,四四五
捒東上堡ノ内	六〇,八〇八	七五,〇〇〇	五,五二一	三一,六二四	五四,八一三
捒東下堡	四二,一七二	七五,〇〇〇	九八,八二三	六一,三七九	三三,〇一一
苗栗三堡	二三,三一〇	四一,〇〇〇	二五,三六〇	四九,〇〇〇	四二,五三三
大肚上堡	一三,八〇〇	三〇,〇〇〇	三二,三九五	七,六八五	一四,二九一
大肚下堡	四,七〇〇	一三,〇〇〇	—	三,〇〇五	一三,五七四
猫羅堡	一三,五九七	一八,〇〇〇	二三,一五八	三〇,六五〇	六,九一九
線東堡	—	六〇〇	—	—	—
馬芝堡	三二,三七八	一八〇,五〇〇	二三三,六八五	一七,五二六	五三,六〇四

堡別	四十四年	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年
蔴霧下堡	二四五、五七二	四二六、〇〇〇	一〇五、六四二	七一、三六五	四九、六一五
武東堡ノ內	二九、三七六	四九、二〇〇	八〇、七〇六	六二、〇四五	三七、二〇九
武西堡	六四、二七五	一一八、〇〇〇	一一七、九四七	一三〇、〇〇〇	二一五、一八〇
東螺東堡	七二、一六〇	一三一、〇〇〇	四〇三、〇三七	二三二、二〇〇	一一〇、一七〇
東螺西堡	九六、八九〇	二四〇、〇〇〇	五一〇、〇四五	三八四、三〇〇	二〇六、〇八五
二林上堡	四三、六七五	七五、〇〇〇	七六、七三九	四六、〇〇〇	三五、九六〇
二林下堡	—	—	一〇二、三〇七	一一、三八〇	一一、八八〇
深耕堡	—	—	三、三六〇	一四、五一〇	二、四〇〇
計	七七九、七二三	一、五三一、三〇〇	一、八八八、九八八	一、一九二、二九九	八二一、八〇五

（五）臺南廳下に於ける黃麻作付面積

堡別	四十四年 甲	大正元年 甲	大正二年 甲	大正三年 甲	大正四年 甲
安定里東堡	六・二五	六・六八	七・六五	七・三六	七・六一
新化里西堡	五・〇〇	四・五〇	二・五〇	五・〇〇	五・〇〇
蔴荳堡	一一・三〇	一〇・九〇	四・三〇	五・三一	四・九四
西港仔堡	一六・一〇	一六・七〇	七・一〇	五・〇一	一三・六一
蕭壠堡	二一・〇〇	二一・四〇	一三・七〇	一三・二〇	一一・五〇
漚汪堡	—	—	—	—	五・二〇
學甲堡	三・三〇	三・九七	二・六〇	四・一四	四・〇六
佳里興堡	四・〇〇	二・二〇	一・五〇	二・〇〇	一・六〇
茅港尾東堡	二・六〇	二・九〇	一・五〇	〇・八〇	〇・七〇
茅港尾西堡	二・五〇	二・三〇	二・一〇	二・一〇	一・五〇
赤山堡	—	—	—	—	六・一〇

善化里東堡	五・三〇	五・一〇	二・〇〇	五・三〇	八・八〇
善化里西堡	二三・四八	二〇・六〇	一五・二三	二三・四〇	三・五〇
楠梓仙溪西里	七・二〇	七・三〇	九・六〇	一一・六六	一一・四〇
內新化南里	五・五〇	五・五〇	五・五〇	〇・五五	七・〇〇
外新化南里	一八・五〇	二一・〇〇	二一・〇〇	二〇・〇四	二一・七〇
新化東里	五・二〇	五・二〇	三・二〇	三・二〇	四・〇〇
新化北里	一・二〇	一・〇〇	一・〇〇	—	—
新化西里	四・〇〇	四・五〇	五・五〇	四・五〇	四・五〇
大目降里	一七・〇〇	六・五〇	九・〇〇	一一・五〇	一三・五〇
廣儲東里	三・七〇	二・五〇	三・〇〇	三・五〇	四・五〇
廣儲西里	〇・七〇	—	—	—	—
保東里	一・九〇	二・三〇	一・五〇	一・七〇	一・九〇
保西里	五・九〇	五・七〇	六・二〇	四・二〇	七・九〇
長興上里	二・五五	一・七四	〇・四六	五・三一	二・七二
長興下里	一三・一五	八・一四	一九・三四	一六・二四	一一・九一
仁德南里	—	—	—	〇・六〇	〇・六〇
仁德北里	—	—	—	〇・四〇	〇・四〇
歸仁南里	四・五〇	四・五〇	五・〇〇	六・五〇	五・六〇
歸仁北里	三・五〇	四・〇〇	五・五〇	六・五〇	八・五〇
永豐里	四・〇〇	四・〇〇	四・〇〇	六・〇〇	五・五〇
內新豐里	九・二〇	九・三〇	九・三〇	一三・五〇	一五・〇〇
崇德西里	—	四一・八〇	二・五〇	一・八〇	四・五〇
維新里	八・三〇	七・五〇	五・八〇	三・五〇	一・四〇

嘉祥外里	—	—	一・五〇	五・一〇	五・六〇
仁壽上里	〇・九八	一・八五	二・四〇	三・五五	二・〇〇
仁壽下里	〇・三〇	〇・三〇	〇・四〇	〇・五〇	—
觀音上里	三・六〇	三・九〇	三・六〇	四・四〇	四・二〇
觀音中里	一〇・三〇	九・五〇	八・三八	七・八〇	七・〇九
興隆外里	六・八〇	七・三〇	四・〇〇	五・一〇	八・五〇
小竹下里	一四・一〇	七・四〇	四・五〇	四・二五	三・八五
計	二四一・九一	二六九・九八	二〇二・三六	二三〇・四七	二五六・〇九

（六）臺南廳下に於ける黃麻纖維產額

堡別	四十四年	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年
	斤	斤	斤	斤	斤
安定里東堡	七,五〇〇	九,〇一七	一〇,八六二	九,二〇〇	一〇,五〇一
新化里西堡	四,六五〇	四,九〇〇	三,四五〇	六,八〇〇	七,六〇〇
蔴荳堡	一七,三九七	一六,〇一六	五,一六〇	四,三〇六	四,〇三五
西港仔堡	一二,五二四	一八,六二三	七,八一五	四,七三四	九,三一九
蕭壠堡	三三,一〇〇	三八,二一〇	二五,三八〇	二三,六〇〇	一七,八〇〇
漚汪堡	—	—	—	—	七,二八〇
學甲堡	三,四三五	四,一七〇	三,九〇〇	一九,〇〇〇	四,九八四
佳里興堡	六,三〇〇	五,五〇〇	二,三五〇	三,〇〇〇	二,七〇〇
茅港尾東堡	五,〇三〇	五,四四〇	二,八二〇	一,五二〇	一,三三〇
茅港尾西堡	五,〇〇〇	四,二五五	四,〇八〇	四,〇七〇	二,九二〇
赤山堡	—	—	—	—	六,八八〇
善化里東堡	四,七七〇	四,〇八〇	一,八三〇	三,二六〇	八,八一三

善化里西堡	三一,二八八	二〇,一五一	一三,七五四	二五,一六〇	二四,三六〇
楠梓仙溪西堡	八,三一〇	六,三〇〇	七,二七〇	九,二五〇	八,九三四
內新化南里	五,五〇〇	五,五〇〇	四,四〇〇	四,九五〇	五,六〇〇
外新化南里	一〇,三〇〇	九,九二一	一一,八九〇	一八,五一〇	一八,〇八五
新化東里	四,九二〇	三,三二〇	二,三〇〇	二,三〇〇	三,一二〇
新化北里	一,一四〇	六八〇	七〇〇	—	—
新化西里	三,九〇〇	五,五〇〇	七,六〇〇	六,六〇〇	六,三〇〇
大目降里	四,九〇〇	五,三七五	七,九二〇	九,九七五	一一,二〇〇
廣儲東里	二,六六〇	一,九五〇	二,六四〇	二,八〇〇	三,七五〇
廣儲西里	五六〇	—	—	—	—
保東里	二,九一〇	四,〇四〇	二,四〇〇	三,〇六〇	三,〇四〇
保西里	一四,六二〇	一四,一二〇	一五,〇五〇	一四,三四〇	二五,〇〇〇
長興上里	七,六五〇	三,四八〇	六九〇	一〇,六二〇	七,〇七一
長興下里	三六,四五〇	一六,二八〇	二九,〇一〇	三二,四八〇	三〇,九六六
仁德南里	—	—	—	三,〇〇〇	三,〇〇〇
仁德北里	—	—	—	二,〇〇〇	二,〇〇〇
歸仁南里	一一,七〇〇	一一,七〇〇	一三,五〇〇	一八,二〇〇	一四,〇〇〇
歸仁北里	九,八〇〇	一〇,四〇〇	一三,五〇〇	一八,二〇〇	二一,二五〇
永豐里	八,九〇〇	八,四五〇	七,七五〇	一三,三五〇	一〇,四〇〇
內新豐里	一六,五六〇	三,四九三	一一,一〇四	一六,四〇三	一七,二五〇
崇德西里	—	三〇〇	四〇〇	四五〇	二,二五〇
維新里	一〇,七九〇	一,五〇〇	二,三二〇	一,五七五	一,一二〇
嘉祥外里	—	—	二四〇	一,二三二	一,六〇五

仁壽上里	九三四	一,五六五	二,三八〇	三,七一〇	二,〇〇〇
仁壽下里	二七〇	二七〇	四八〇	六五〇	—
觀音上里	三,〇〇〇	二,五三〇	一,四四〇	三,〇八〇	三,一五一
觀音中里	九,〇四五	六,五四五	五,二〇八	三,二五〇	三,四〇六
興隆外里	六,八〇〇	五,四九〇	四,〇〇〇	五,三五五	九,三五〇
小竹下里	三三,八四〇	一一,九二八	九,七二〇	七,八〇〇	七,〇六〇
計	三四五,四五三	二七九,九九九	二四二,二一三	三〇二,三一五	三二九,三三一

(七) 南投廳下に於ける黃麻作付面積

堡別	四十四年 甲	大正元年 甲	大正二年 甲	大正三年 甲	大正四年 甲
南投堡	二八・一〇	三五・五〇	七五・二三	五九・四〇	三六・一〇
北投堡	三〇・二五	二九・三六	三九・四〇	四九・三四	四八・〇〇
北港溪堡	〇・五〇	〇・二〇	—	一・六五	—
埔里社堡	四・一五	四・三五	四・九〇	一一・三〇	六・六〇
五城堡	五・一五	五・一二	五・五〇	五・三五	五・八五
集集堡	二・九〇	三・二〇	三・六〇	四・八〇	五・九〇
沙連下堡	五・五〇	四・四〇	三・八〇	二・五〇	一・九〇
沙連堡	二八・五〇	三一・三〇	三三・八〇	四〇・九〇	四〇・三〇
鯉魚頭堡	一・七八	二・九〇	二・〇〇	三・三〇	二・五〇
計	一〇六・八三	一一六・三三	一六八・二三	一七八・五四	一四・一五

(八) 南投廳下に於ける黃麻纖維産額

堡別	四十四年 斤	大正元年 斤	大正二年 斤	大正三年 斤	大正四年 斤
南投堡	四〇,三六〇	一三九,四〇〇	一五六,五七三	一四六,三三〇	一三六,一〇〇

北投堡	八二、四九四	八六、七六四	七七、八三五	一三〇、三〇〇	一六四、五〇〇
北港溪堡	六二八	二六四	—	三、三〇〇	—
埔里社堡	一三、二六〇	一三、七二〇	一四、四六四	二六、五三〇	一七、三一二
五城堡	一、三九四	一、三四一	一、五九〇	一〇、七〇〇	一六、六四〇
集集堡	三、四八〇	三、八四〇	四、三二〇	一〇、五六〇	一二、九八〇
沙連下堡	二一、〇〇〇	一六、二〇〇	一二、七五〇	五、〇〇〇	五、〇五〇
沙連堡	三三、一六〇	四三、三〇五	五五、〇九〇	八一、六〇〇	九二、二八七
鯉魚頭堡	四、〇五〇	四、三五〇	二、七〇〇	六、二七〇	四、〇三〇
計	一九八、八二六	二九七、一八四	三二五、三三一	四二〇、七九〇	四四八、三九九

（九）宜蘭廳下に於ける黃麻作付面積

堡別	四十四年	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年
	甲	甲	甲	甲	甲
本城堡	三·一〇	三·〇〇	二·五〇	二·〇〇	三·〇〇
員山堡	四五·〇〇	四一·三六	四三·四〇	三二·六一	四七·五一
浮州堡	一九·五〇	二三·〇〇	二六·七四	一六·五〇	九·七〇
清水溝堡	五·八六	五·五八	四·八六	四·九二	四·八九
紅水溝堡	一〇·三九	一一·八〇	一二·九〇	一三·一〇	一二·四〇
羅東堡	三·三九	三·四一	三·一六	三·〇二	二·八六
利澤簡堡	一五·六〇	一五·七〇	一九·二三	—	七·〇〇
茅仔寮堡	四·八〇	五·〇六	五·〇一	四·九一	四·六二
二結堡	一三·九〇	一一·八〇	二〇·七八	一八·四〇	一八·七〇
民壯圍堡	一七·二〇	二三·一四	五〇·六〇	四八·三二	三九·四七
四圍堡	一二·〇五	一一·五五	一三·一六	九·三二	九·〇五

頭圍堡	九・七六	九・九六	八・〇〇	一〇・五〇	九・七九
計	一六〇・五五	一六四・三六	二一〇・三三	一六五・六〇	一六八・九九

（一）宜蘭廳下に於ける黄麻纖維産額

堡別	四十四年	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年
	斤	斤	斤	斤	斤
本城堡	七,一三〇	九,九〇〇	五,七五〇	四,二〇〇	七,五〇〇
員山堡	九一,〇四〇	九二,四〇八	一一三,九一〇	六七,七八二	九九,五八五
浮州堡	二九,〇〇〇	二七,五二〇	四一,三八八	二七,五七〇	一八,四二三
清水溝堡	一八,二六一	一七,三〇二	一四,二四八	一四,九八七	一五,八五四
紅水溝堡	二二,四四二	二五,四八八	二七,八六四	二五,四一四	二六,四一二
羅東堡	三三,四三八	三三,一八八	一五,四七五	一三,〇〇七	一四,四四八
利澤簡堡	三四,三二〇	三一,四〇〇	四二,二八四	—	一四,七〇〇
茅仔寮堡	二四,〇〇〇	二四,三三〇	二三,三五〇	一二,七六六	二三,一〇〇
二結堡	二四,〇〇〇	二〇,六四八	三九,七三二	二八,九二九	三二,一五八
民壯圍堡	二五,〇八二	三七,一八五	九四,八五九	七四,三四六	六五,九一二
四圍堡	一〇,八四五	九,二四〇	九,二四二	六,七九六	一〇,九〇四
頭圍堡	九,八六四	九,五五四	八,〇〇四	九,二六〇	一二,五〇九
計	二九九,四三二	三〇八,一六三	四三五,一〇六	二八五,〇五七	三四一,五〇五

（二）臺北廳下に於ける黄麻作付面積

堡別	四十四年	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年
	甲	甲	甲	甲	甲
大加蚋堡	一八・四一	一七・四七	四・七二	一五・七三	一四・八二
擺接堡	二四・〇二	二四・〇八	一六・四七	二三・一六	二一・六二

興直堡	六六・四三	五一・三〇	一八・三八	一〇八・〇〇	二四・〇〇
八里坌堡	—	〇・三〇	〇・九一	〇・九一	一・〇〇
芝蘭一堡	一五・一八	一五・三三	二九・三八	三六・〇三	三七・一五
芝蘭二堡	四三・八四	二四・五四	一八・九九	五・八六	八・六八
金包里堡	—	—	—	一二・五〇	一・〇〇
文山堡ノ內	四・五〇	三・六〇	四・九五	二・〇〇	三・一〇
計	一七二・三八	一三七・六一	九三・八〇	二〇三・一九	二一〇・三七

(三) 臺北廳下に於ける黃麻纖維產額

堡別	四十四年	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年
	斤	斤	斤	斤	斤
大加蚋堡	一二,四五八	二八,一六七	一二,二八二	二五,三二〇	二三,八二〇
擺接堡	五四,一五九	五三,四九八	四一,三三五	五六,四七三	五三,二七八
興直堡	二三二,五〇五	一九六,一二五	四一,二七四	一二四,二〇〇	五二,八〇〇
八里坌堡	—	七五〇	一,二六〇	九七三	一,〇八〇
芝蘭一堡	三一,〇一九	三〇,二四九	六四,三八四	七四,三〇二	七五,九一三
芝蘭二堡	七三,八五一	三四,四一〇	二八,七三四	五,一八三	七,八八〇
金包里堡	—	—	—	三,五九〇	一,〇九六
文山堡ノ內	一二,一八〇	一二,七二〇	一二,八五〇	四,四〇〇	四,七二五
計	四一六,一七二	三五五,九一九	二〇二,一一九	二九四,四三一	二三〇,五九二

次に參考のため內地及英領印度に於ける黃麻作付面積及產額を示さん。

(三) 大正四年內地に於ける黃麻產額

地方名	作付段別	收穫高	段當收量	價額	一貫の價格
	町	貫	貫	円	円
三重	二·六	一、三八五	四九·四三三	七三	〇·五五四
愛知	三·二	一、一四五	三五·七八一	六三七	〇·五五六
靜岡	七八·六	二一、七三一	二七·六四八	一一、一六七	〇·五一四
岐阜	〇·二	四〇	二〇·〇〇〇	二五	〇·六二五
青森	七·五	二、二五〇	三〇·〇〇〇	一、五〇〇	〇·五八六
鳥取	〇·二	五二	二六·〇〇〇	一八	〇·三四六
島根	一·四	八一五	五八·二一四	二〇三	〇·二四九
和歌山	〇·五	三四〇	六八·〇〇〇	一二六	〇·三七一
德島	一·五	一五〇	一〇·〇〇〇	二四〇	一·六〇〇
香川	〇·二	九〇	四五·〇〇〇	四五	〇·五〇〇
愛媛	一·三	一、〇九五	八四·二三一	二二三	〇·二〇三
高知	四·〇	二、〇七〇	五一·七五〇	一、二八六	〇·六二一
福岡	五〇·八	一八、七三一	三六·八七二	九、三六八	〇·五〇〇
大分	一六二·七	四七、七二四	二九·三三三	二六、四一六	〇·五五三
佐賀	一七·八	七、九〇七	四四·四二一	四、三〇二	〇·五四四
熊本	一四二·三	七二、七一一	五一·〇九七	三六、一一〇	〇·四九七
宮崎	四九·九	二六、〇四五	五二·一九五	八、三三八	〇·三二〇
鹿兒島	四一·五	一八、四一七	四四·三七八	一一、一六五	〇·六〇六
長崎	三·八	三、三四六	八八·〇五三	七三五	〇·二二〇
計	五七〇·〇	二三五、九四四	四四·八六三	一二三、六〇五	〇·五二四

備考　黄麻は内地に於て古くより九州地方に栽培せらるゝ雖統計に公表せられたるは第三十二次農商務統計表を以て嚆矢と

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

す而して前表示すか如く青森、鳥取及島根の三縣下にて之を栽培するは甚疑ひなき能はざるも統計表のまゝ之を掲載せり。

（四）英領印度に於ける黃麻作付面積及產額

年號	作付面積（英町）	產額（ハンドレッドウエート）
一九〇一―〇二年	二,二六三,八〇〇	二六,五六四,〇〇〇
一九〇二―〇三年	二,一四二,七〇〇	二三,四八九,〇〇〇
一九〇三―〇四年	二,二七五,〇五〇	二五,八六一,〇〇〇
一九〇四―〇五年	二,八九九,七〇〇	二六,四二九,〇〇〇
一九〇五―〇六年	三,一二八,三〇〇	二九,〇七五,〇〇〇
一九〇六―〇七年	二,四八二,九〇〇	三二,八八〇,〇〇〇
一九〇七―〇八年	三,九七四,三〇〇	三五,〇六四,〇〇〇
一九〇八―〇九年	二,八五六,七〇〇	三五,六二四,〇〇〇
一九〇九―一〇年	二,七二八,一〇〇	二八,八〇〇,〇〇〇
一九一〇―一一年	二,九〇〇,〇〇〇	三六,〇〇〇,〇〇〇

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

第四節　需要供給

輓近本邦に於ける產業界の顯著なる發展に伴ひ輸移出入米麥其他包裝用カンニー袋を必要とする產物激增し、本島黃麻栽培の將來大に有望となるや本島內外の企業家有志者等しく注意を喚起するに至れり。然るに前述せる如く本島黃麻產額平均四百萬斤價額二三十萬圓內外にして僅かに對岸支那地方へ三萬斤內外價額千圓の輸出あるのみにして其他は悉く索繩、布袋、粗麻布及雜用として島內に消費し盡さる。如斯を以て臺灣製麻會社の如き島內產纖維を利用し比年增加するガンニー袋の

需要を充たさんことを劃策し、努力大に勉むと雖島內產額の增加せざると再製法煩瑣にして且纖維の品質輸入品に劣る關係上之が供給を年々海外(主に英領印度)の輸入に待たざるべからざるの現況なり。左に輸移出入額を示さん。

(一) 輸移出額

年次	輸出黄麻(麻皮) 數量	輸出黄麻(麻皮) 價額	移出黄麻(麻皮) 數量	移出黄麻(麻皮) 價額	輸移出價額合計
四十四年	一四,九六〇斤	六八七円	二,〇〇〇斤	一五〇円	八三七
大正元年	八,九七四	三六七	二五八	九〇	四五七
同二年	二〇,八六四	一,〇六五	—	—	一,〇六五
同三年	五,九一七	三一四	四〇〇	一八	三三二
同四年	二,一八一	一五六	二〇〇	一〇	一六六

備考 輸出先は多く支那にして移出先は東京橫濱及神戶等なり。

前表に依れば本島黄麻及之が製品輸出狀況甚不振にして到底一產物として之を論ずるの價値なしと雖現今本島に於ける黄麻纖維及製品の需要狀態より觀察せば輸移出額の多きを望まんより寧ろ島內產額の增加と品質の向上に力を注ぎ以て輸移入額を防遏するを先決問題なりとす。

(二) 輸入額

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

年次	黄麻 數量	黄麻 價額	ガンニー袋 數量	ガンニー袋 價額	故ガンニー袋 數量	故ガンニー袋 價額	黄麻布 數量	黄麻布 價額
	斤	円	個	円	個	円	方碼	円
四十四年	七三〇,五四六	七〇,三一八	一,七九三,七〇〇	四二四,四三三	一四一,二六七	二一,七八三	二五九,一六九	一三,九〇三
大正元年	八四一,九九三	六二,三七六	三七三,二七四	八三,二九〇	九八,五六九	一七,一〇六	三九四,二一二	二四,九七二
同二年	一,〇四五,七二一	九五,六一五	一,〇九四,七六〇	三二〇,五二六	五五,八二九	七,二六五	三五八,二九三	二〇,六〇一
同三年	一,一六四,八七二	一三五,七四四	四八六,四〇〇	一三四,三八七	四三,二七〇	五,一七五	四二一,九九四	二三,七六七
同四年	二,六六一,八七二	二九四,三三一	五八九,七〇七	一五八,八九九	六七,五九八	一〇,六九一	三七四,四八九	二〇,七〇四

(三) 輸移入額

年次	輸入黄麻袋 數量	輸入黄麻袋 價額	輸入故黄麻袋 數量	輸入故黄麻袋 價額	輸入價額合計	移入ガンニー袋黄麻袋 數量	移入ガンニー袋黄麻袋 價額	輸移入價額合計
	個	円	個	円	円	個	円	円
四十四年	二〇七,〇二三	一六,二一七	一,四一四	六三	五四六,六一七	五六九,九五六	一一七,七六八	六六四,三八五
大正元年	二一六,〇六〇	一六,八九七	一六〇	九	二〇四,六五〇	一,〇四四,三二三	二一四,七三五	四一九,三八五
同二年	一一六,三三五	九,九三四	八〇	四	四五三,九四五	一,〇三一,二七九	二一四,八五四	六六八,七九九
同三年	八四,五一四	七,九五一	—	—	二九六,〇二四	七五三,五八七	一八二,九五〇	四七八,九七四
同四年	一二九,三五〇	一〇,一六四	一,三七二	六三	四九四,八五二	五四七,五四〇	一四二,七三〇	六三七,五八二

備考　黄麻及ガンニー袋の輸入先は英領印度海峡殖民地及支那にして黄麻袋及黄麻布は支那より輸入す。内國産移入製品の多くは大津鹿沼等に工場を有する帝國製麻會社攝津都賀濱に印度麻製造工場を有する小泉合名會社の製作に係るものとす。

前表に依れば黄麻及之が製品輸移入額年々四十萬圓乃至六十萬圓内外を上下し、原料黄麻にありては年々増加の傾向を示せり。而して該原料纖維は殆んど臺灣製麻株式會社に於て消費せらるゝものにして、同會社は尚本島産幼、粗麻をも再製消費し、以て本島内外に於ける需要を充たしつゝあるも、尚不足を告け之を島外輸移入に待たざる可らざる狀況なり。如斯狀態なるを以て直ちに將來を斷すること能はずと雖殖産業の過去及現在に於ける膨張發展に鑑み之と密接なる關係を有する黄麻の將來に於ても急激なる供給増加又は需要減退等特殊なる原因他になくは現在より以上の發展をなさざるべからさるは疑ふを要せざる處なり。殊に本島に於ける黄麻栽培の幼稚なる尚幾多改善を要する餘地綽々たる現況なるに於てをや。故に當業者は之等の諸點に著眼し從來の製造法を改革すると共に、優良品種の栽培を普及し以て産額の増加を企圖するに至りては輸入品を防遏するのみならず、從來の製法と同等或は以下の生産費を以て約倍額或は以上の生産物を獲得し得るの利益あるに於てをや。左に參考のため最近十箇年間に於ける英領印度の輸出額を示さん。

(四) 英領印度に於ける輸出額

年號	數量（ハンドレットウエート）	價額（留比）
一八九九—一九〇〇年	九、七二五、二四五	八〇、七一六、四七〇
一九〇〇—〇一年	一二、四一四、五五二	一〇八、六七七、五六〇
一九〇一—〇二年	一四、七五五、一一五	一一七、九二七、七二〇
一九〇二—〇三年	一三、〇三六、四八六	一一一、三六四、七五〇
一九〇三—〇四年	一三、七二一、四四七	一一七、一八一、三二〇
一九〇四—〇五年	一二、八七五、三一二	一一九、六五六、四六〇
一九〇五—〇六年	一四、四八〇、四〇七	一七二、三五六、六四〇

一九〇六—〇七年	一五、九七〇、四七八	二六八、三八六、八一〇
一九〇七—〇八年	一四、一九一、五九七	一七九、七二八、〇一〇
一九〇八—〇九年	一七、五二四、〇〇〇	一八九、三四五、五五〇

次に參考のため最近五箇年間に於ける英國ロンドン市場の黄麻纖維一噸の價額を示さん。

年號	最高價額（英磅）	最低價額（英磅）
一九〇六年	二八、八分ノ五	一九、二分ノ一
一九〇七年	二七、二分ノ一	一四、二分ノ一
一九〇八年	一九、二分ノ一	一四、四分ノ一
一九〇九年	一五、八分ノ一	一二、四分ノ三
一九一〇年	二一、二分ノ一	一三、八分ノ五

第三章　黄麻の特性及品種

第一節　性状

黄麻（Corchoras capsularis L.）は田麻科に屬する一年生草本にして莖稈の內部には柔軟なる木質部を有し表皮の靭皮部中には稍强き光澤ある纖維を有せり。直立圓柱形にして地上部の大さは直徑三四分乃至六七分なり。

成熟後に於ける草丈は各品種により差異あるも普通八九尺乃至一丈にして長きものは一丈四五尺に達することあり。何れも稍端部に至り枝椏を分岐し莖稈の色は品種により青綠色、紅色淡紅色及深紅色等の別あり。數多の綠葉を互生す。葉は披針形若しくは長楕圓形にして長さ一〇—二五幅三—六センチメートルあり。先端尖鋭基部圓く支脈は七乃至九本にして緣に鋸齒狀缺刻を有し、長さ一五—二五ミリメートルなる葉柄により莖稈部に著生せり。而して葉片の基部葉柄部に附著する附

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

近より左右兩側に各一條宛長さ五―七ミリメートルを有する鋸齒の著しく變化せる鬚狀體を分出せり、之れ他植物に多く類例なく本作物固有の一特徴なりとす。托葉は線形にして長さ五―一〇ミリメートルを有し葉柄の莖部に相對して著生す。

Corchorus capsularis L.

花は小形黃色にして莖稈稍端部に分岐せる枝梢上の葉掖より出て單或は一二分枝し、極めて短き

花梗を以て簇生す、萼は五片帶綠黃色長披針形にして縱に紫條を入れ、長さ四幅一、五ミリメートルあり。

Corchorus olitorius L.

花辨は五片萼と互生し黃色にして楔狀頂端圓く稍波狀をなし、基部に向つて漸次細く長さ五幅二、五ミリメートルあり。雄蕊は五箇花辨と互生し長さ二ミリメートル花糸は少しく灣曲して黃色頂端二胞よりなる葯を著く。子房は球形にして高約一「ミリメートル」あり、花柱は頂端分岐することなく長さ約一「ミリメートル」あり。蒴果の形狀は恰も兩端より押し潰したるが如き形狀を呈し、縱に十乃至十二條の不規則なる疣狀隆起線あり長さ一〇幅一〇―一二「ミリメートル」にして一蒴果中に三十乃至五六十粒の光澤ある暗褐色の種子を包藏せり。

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

葉柄、托葉鬚狀體及蒴果の色は品種により青綠色、紅皮深紅色及暗紫紅色等の別あり。而して種子成熟するに至れば蒴果又淡黃褐色に變化するものとす。

以上の外別に長莢種（Corchrus olitorius L.）あり前種に比し莖稈細長く表皮薄く綠色及淡紅色を呈す。葉は互生し形狀大さ等殆んど前種と同樣にして唯支脈の數九乃至十一あるを異にするのみ。托葉又前種と同一にして青白色を呈するものと深紅色をするものとの二種あり。花梗は長さ二ミリメートルあり單又は一二分枝を有せり。花は黃色にして萼は五片青色或は紫色の斑點を有するものあり。形狀披針形にして頂端尖鋭長さ五―五、五幅一、五「ミリメートル」あり。花瓣は黃色にして長き倒卵狀を呈し基部に進むに從ひ漸次細く頂端凹頭長さ四、五幅二、五「ミリメートル」あり。雄蕋は五箇花瓣と互生し花糸は黃色にして長さ三―三、五「ミリメートル」あり。頂端に二胞よりなる葯を著生す。子房は長隋形にして長二ミリメートル花柱は長さ一、三「ミリメートル」あり。蒴果の形狀眞直なるか或は稍彎曲し紡錘狀又は圓柱狀にして十乃至十四條の隆起縱線を有し中間凹所に紫紅色の縱線を有するものと否らさるものとあり。而して隆起線の頂上面滑ならず蒴果の長さ三五―六五幅六―七ミリメートルにして先端尖鋭とな内りに小形濃藍色の種を包藏せり。一蒴中の種子百八十乃至二百粒とす

第二節　纖維の性狀

黃麻の纖維は灰褐色にして光澤に富み他の植物纖維に比し紡績に容易なるの利あれども耐久力に乏しく水濕により速かに腐朽し否寧ろ普通の狀態に於ても日を經るに從ひ漸次脆弱となりて其の强度を失ふの缺點あり。而して漂白劑に對する抵抗力强きが故に未だ純白に漂白せらる丶の方法なし。

黃麻纖維細胞は長さ一•五粍乃至五粍ありて其巾二〇乃至二五ミユウあり外觀圓形若しくは多角

形にしてルーメンは大きく從つて細胞壁は薄し。市場に販賣せらる、精製纖維は六乃至二十の纖維束より成れり。

黃麻纖維は亞麻苧麻の如くセルロースにあらずしてグノセルロースにして其の化學的反應は兩者自ら相違あり。

試藥名	セルロース	リグノセルロース
硫酸沃度液	青色	黃色乃至褐色
硫酸アニリン及硫酸	變化なし	深黃色
鹽基性染料	染色す	染色す
弱酸化劑	變化なし	速かに分解
シュワイツエル氏劑	溶解	膨脹して青色となり漸次溶解す

而して纖維の化學的成分は左の如し

成分	精製纖維
灰分	一
水分	九、六四
浸出物(水)	一、六三
油蠟	〇、三二
纖維素	六三、〇五
包被物	二五、三六

第三節 分類及品種

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

現今當場にて栽培中の黃麻十五品種に就き蒴の形狀、色、莖稈及葉柄の色熟期の早晩等最も單一なる方法に依り分類せば次の如し。

(壹)球莖種 學名 *Corchorus capsularis* L.
和名 ツナソ、カナビキオ、イチビ

(一)球莖種(Corchorus capsularis L.)

(A)蒴 莖稈及葉柄の色深紅色を呈するもの

(イ)早生 早生赤 (舊名 アーリー、レッド)

(ロ)中生 中生赤 (舊名 カプスラリス)

(ハ)晩生 深紅皮種 晩生赤 (舊名レート、レッド)

(B)蒴、莖稈及葉柄の色淡紅色を呈するもの

(イ)早生 紅皮種 (舊名 紅莖種)

(ロ)晩生 淡紅皮種

(C)蒴、莖稈及葉柄の色綠色を呈するもの

(イ)早生 早生青 (舊名 アーリー、グリーン)

(ロ)中生 印度青皮種 (舊名 印度白皮種)

(ハ)晩生青 (舊名レート、グリーン)

(D)蒴及葉柄色稍紅色を呈し莖稈綠色を呈するの

(イ)早生 青皮種 (舊名 白莖種)

(ロ)中生 爪哇青皮種 (舊名 爪哇白皮種)

(二)短形種 (Corchorus capsularis var. oocarpus)

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

(A)蒴莖稈及葉柄の色綠色を呈するもの

(イ)早生　早生短莢青種

(ロ)晩生　短莢青種

(貳)

長莢種　學名 Corchorus olitorius L.　和名 シマツナソ

(A)蒴莖稈及葉柄綠色を呈するもの

(イ)早生　長莢青種（舊名　オリトリヤス）

(B)蒴に縦紫紅線を有し莖稈及葉柄淡紅白色を呈するもの

(イ)早生　長莢斑縞種（舊名なし）

以上の外更に細部の諸特性を加へ表示せば次の如し。

品種別特性一覽表

品種名	莖稈色	收穫當時の草丈	葉柄の色	葉片主脈の色	托葉の色	拔芽發達の程度	蒴果の形狀及色	熟期の早晩	種子の色
淡紅皮種	淡紅色	尺 10・三三	紫紅色	紫淡紅色	青白色にして先端褐淡紅色	なし	扁圓形頂端淡紫紅色	晩生	光澤ある暗褐紅色
深紅皮種	深紅色	10・三五	深紅色	淡紫紅色	淡紅色	なし	右同	晩生	光澤なき暗褐紅色
印度青皮種	青綠色	10・六二	青綠色	同上	青白色	十分發達し展葉せり	扁圓形綠色	中生	光澤ある暗褐紅色
爪哇青皮種	青綠色	10・六八	濃紫紅色	綠色にして多少紫紅色の斑點あり	淡紫紅色の斑點あり	右同	扁圓形頂端淡紫紅色	中生	右同
早生赤	暗紫紅色	10・五一	暗紫紅色濃厚なる	淡紫紅色	淡紫紅色の斑點あり	右同	右同	早生	右同
早生青	青綠色	10・五〇	青綠色	淡綠色	青白色	右同	扁圓形綠色	早生	右同

晩生赤	暗紫紅色	一〇・七五	濃厚なる暗紫紅色	淡紫紅色	同上	右同	扁圓形頂端淡紫紅色	晩生	右同
晩生青	青綠色	一一・〇六	青綠色	青白色	同上	右同	扁圓形綠色	晩生	右同
短莢青種	青綠色	九・五六	青綠色	青白色	同上	右同	倒錘狀短形綠色	晩生	右同
早生短莢青種	青綠色	九・三七	青綠色	青白色	同上	右同	右同	早生	右同
紅皮種	紅色	八・九九	暗紫紅色	淡紫紅色	淡紅色	なし	扁圓形頂端淡紫紅色	早生	右同
青皮種	青綠色	八・七七	淡紫紅色	同上	青白色深紅色の斑點を有し紋狀を呈せり	十分發達し展葉せり	同上	早生	右同
中生赤	暗紫紅色	九・二〇	暗紫紅色	同上		十分發達し展葉せり	同上	中生	右同
長莢青種	青白色	一〇・五九	淡紅白色	青白色	同上	莖稈基部に展葉するも漸次枯死落葉す	長形綠色にして縱紫紅色の線あり	早生	濃藍色
長莢斑縞種	淡紅白色	一〇・四八	淡紅色	同上	基部及先端深紅色にして中間青白色	右同		早生	右同

備考　收穫當時の草丈中短莢青種、早生短莢青種及長莢斑縞種は二箇年平均其他の品種は五箇年平均數を示せるものなり。
鬚狀體の色は葉柄の色と相一致するを以て之を省略せり

第四節　本島に於ける品種の分布

前項に述べたる品種の多くは主產地たる印度及爪哇地方より種子を取り寄せ本島普通在來種と比較し之が優劣を試査し以て本島黃麻改良の資料に供せんがため當場にて數年來試作し來れるものにして各地希望者に少量宛配布し來れるを以て各地に散見するを得べし。而して全島各地に分布せる品種の最普通なるは紅皮種及青皮種にして稀に深紅皮種及淡紅皮種の二品種をも栽培せらる。次に明治三十九年以來各地に配布せる數量及品種を示し以て本島に於ける之等品種の分布狀態を明にせんとす。

自明治三十九年至大正五年十一箇年間に於ける黄麻種子配布高及地方

地名	淡紅皮種	深紅皮種	印度青皮種	爪哇青皮種	早生赤	早生青	晩生青	晩生赤	短莢青種	紅皮種	青皮種	中生赤	長莢青種
	斗	斗	斗							斗	斗	斗	
基隆	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〇・〇一〇	—	—	—
臺北	〇・八三五	〇・八三五	〇・〇二五	—	—	—	—	—	—	〇・三一〇	〇・一一五	〇・〇五五	〇・〇〇五
宜蘭	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〇・〇四〇	〇・〇四〇	〇・〇四〇	—
桃園	〇・一〇〇	〇・〇一〇	〇・〇二〇	—	—	—	—	—	—	—	〇・〇一〇	〇・〇二〇	—
新竹	〇・〇四〇	〇・〇二〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
臺中	〇・五七〇	〇・三〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〇・〇五〇	〇・〇五〇
南投	〇・一一〇	—	—	—	—	—	—	—	—	〇・〇二〇	—	—	—
嘉義	〇・五一〇	〇・三一〇	—	〇・〇一〇	—	—	—	—	—	〇・二〇〇	〇・一〇〇	〇・二一〇	〇・二〇〇
臺南	一・二一〇	〇・四九五	〇・一八〇	〇・〇八〇	—	—	〇・〇八〇	—	—	—	—	〇・一〇〇	—
阿緱	〇・〇四〇	—	〇・〇二〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
臺東	〇・一〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〇・一〇〇	—	—
花蓮港	〇・〇九〇	〇・〇一〇	〇・〇一〇	—	—	—	—	—	—	—	〇・二四〇	〇・一〇〇	—
恒春	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〇・〇二〇	〇・〇二〇
澎湖島	〇・〇二五	〇・〇二〇	—	—	—	—	—	—	—	—	〇・〇〇五	〇・〇〇五	—
計	三・六三〇	二・〇〇〇	〇・二五五	〇・〇九〇	—	—	〇・〇八〇	—	—	〇・五八〇	〇・五一〇	〇・六〇〇	〇・二七五

第四章　天然的要素

第一節　氣候

黄麻は元來熱帶地方の原產なるを以て氣候温暖なる地方よりも寧ろ高温且生育期中屢々降雨ある地方最も生育に適合するものなり。卽ち之が實例として見るべきは當場に於て主產地なる印度より種子を取寄せ試作の結果成績良好結實又佳良なるを實驗せり。然るに同一品種或は本島在來種を內地九州地方に之が栽培を行はんに內地在來品種に比し草丈長く收量多きも結實不十分にして之が栽培を繼續せんと欲せば年々種子供給を本島に仰かざるべからざる不便あるを確めたり。之を以て本島は氣候温和なる內地に比し黄麻栽培に適合せるを知るべく世界の一大主產地たる印度ベンゴールと本島との氣象を比較するに次の如し。

毎月	カルカッタ 温度	カルカッタ 雨量	臺中 温度	臺中 雨量
一月	一八・二	一一・三	一六・〇	四五・六
二月	二一・五	二四・六	一五・二	六三・一
三月	二六・一	三三・三	一八・二	九二・一
四月	二九・一	六〇・二	二一・九	一〇七・七
五月	二九・二	一三九・二	二五・〇	二四〇・三
六月	二九・一	二九八・九	二六・六	三八〇・八
七月	二八・二	三三九・二	二七・五	二九四・七
八月	二八・〇	三五四・一	二七・二	二六二・三
九月	二八・〇	二五二・〇	二六・三	一四四・八
一〇月	二七・一	一三七・七	二三・七	一五・六
一一月	二三・五	一五・二	二〇・三	一四・六
一二月	一八・一	八・一	一七・二	二三・〇

平均	二五・八	一	二三・一	一
年	一	一、六六三・七	一	一、八〇三・六

之れによりて見れば氣象要素の彼此甚だ酷似せるを見る。殊に印度本島共に之れが栽培期間は三四月より八九月にありて此の間に於ける溫度及雨量の相似たる如何に本島に於ける黃麻栽培の適するかを推知するに難からざる可し。

第二節　地形及土質

黃麻の生育期中或は收穫期に際し屢々暴風の襲來する地方は防風及風力を緩和し得る地形の土地を選定するにあらざれば之れがため生育を阻害せられ且つ收量を減する等不慮の損害を招くことあるを忘るべからず。而して之が栽培に最も良く適合する土質は稍黑色を帶へる排水良好なる土地にして灌漑に便なる表土深き肥沃なる粘質壤土若しくは壤土とす。水田を排水し或は緩傾斜地にして濕潤なる土地亦不可ならざるも砂礫多き土地乾燥甚しき砂質地及灌漑に不便なる土地を黃麻栽培に不利益なる土地なりとす。

第五章　臺灣主要產地に於ける黃麻栽培方法

本島各主要產地に於ける黃麻栽培法を調査するに其地勢、土質を異し灌漑の便否、栽培作物の種類、或は地方的習慣を異にするに從ひ各地多少其趣を異にす。殊に嘉義廳下嘉義西堡湖仔內庄、柳仔林庄、崎仔頭庄、下路頭庄及車店庄地方は臺中廳下北斗、員林地方と共に本島優良黃麻產地として知られ、之が栽培法に至りては唯普通耕種法に因るものと思惟し一般世人の注意を喚起するに至らざりしも調査の結果殆んど水稻栽培法に於けるが如き特殊の栽培方法をなせり。然れども之れ一

地方に限られたる方法にして全島を通じ之が栽培法を區別せば畑作法、乾田作法及水田作法の三種となすを得べし。卽ち畑作法は畑地に栽培し乾田作法は田畑相半し多少稻作をも行ひ得る看天田に水田作法に至りては全然稻作(第一、二期共)を行ひ得らるゝ水田(嘉義西堡の如き)に栽培するものゝ之なり。今各主要產地に於ける栽培を調査するに各地とも雜駁粗放にして一般耕作法、製造法及品種改良等尙幾多の指導改良を要する諸點數多あるを認む然して各地に於ける栽培者は異口同音に『黃麻收益は甘蔗及其他の作物に比し決して劣るに非ざるも製造に多大の費用を要すと嘆ずるも以上の諸點を改善向上せしむるのみにても尙本問題を解決するに十分なるべく製造費を低減するが如きは決して至難事にあらざるなり。

第一節　當場に於ける黃麻栽培法

(一)　地形及土質　臺北廳下に於ける黃麻主產地は興直堡其首位を占め芝蘭一堡擺接堡等相順次し大加蚋堡第四位にして當場所在地たり。

當場は東面に山陵を負ひ南北は平坦開豁にして臺北平原に連り瑠公圳場內を貫流し灌漑甚だ便なり試驗地の土質は强粘土にして第四期新層河成沖積土に屬せり。

(二)　品種當場試作に係る品種は前章分類の條下に記述せるを以て當場に於ける各品種栽培の由來を左に示さんとす。

品種名	栽培の由來
深紅皮種、淡紅皮種	二品種共明治四十年九月臺北廳大加蚋堡下內埔庄陳廷永の栽培せる黃麻中に混在しあるを發見し、草丈高く分枝最も少く兩品種の特徵顯著なるものゝみを選別採種し、翌四十一年四月より當場にて栽培繁殖し以て今日に及べるものなり。

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

印度青皮種　明治四十三年二月印度プサ農事試驗場より輸入し當場にて栽培繁殖せるものなり。

爪哇青皮種　明治四十三年一月爪哇ボイテンゾルク植物園より輸入し爾來當場にて栽培繁殖せるものなり。

早生赤、早生青、晩生赤、晩生青　以下四品種共明治四十三年五月印度カルカッタ領事を煩はし Office of the fiber expert to the Govt. of E. B. & Assam, の手を經て「ベンゴール」產のものを輸入し當場にて栽培繁殖し今日に及べり。

短莢青種　大正二年四月印度ベンゴール產のものを Office of the fiber expert. Dacca. の手を經て輸入し當場にて栽培繁殖せるものなり。

早生短莢青種　前種中特に開花結實の早きもの一莖あるを發見し之を原種となし大正三年以來當場にて繁殖せるものなり。

紅皮種　本島在來品種にして明治三十六年當場創立當時臺北廳錫口地方に栽培せるものを取り寄せ當場にて栽培繁殖せるものなり。

青皮種　紅皮種と同じく本島在來種にして明治三十八年新竹廳下より取り寄せ當場にて栽培繁殖せしものなり。

中生赤　從來單に「カプスリス」と稱し來れるものにして明治三十五年殖產局より印度ベンゴール產のものを配布せられ當場にて栽培繁殖し來たるもの。

長莢青種　從來單に「オリトリアス」と稱し來れるものにして中生赤に同じ。

長莢斑縞種　長莢青種中に混在しあるものを發見し爾來當場にて栽培繁殖し來るものなり。

（三）輪栽法　當場に於ける輪栽法は試驗地に限りあると試驗作物の多數なる關係上普通農家の如く跡地を直に利用すること能はず。故に年一回作を行ひ跡地を休閑せしめ翌年に於ける他作物試驗用地に充てざるべからざるを以て黃麻輪栽の必要を認むと雖之が理想的輪栽法を實施し得ざる所以なり。然れども連作を避け多くは落花生、甘藷、アロールート、キャッサバと二年乃至三年一回の輪栽を行へり。

（四）整地　十月乃至十一月頃前作物收穫跡地を二頭牽犂にて犂耕し置き風化作用を十分ならしめ播

種三四十日前刈耙或は「アクメ、ハロー」にて土塊を碎き元肥（煙骨）を圃地面に均一に撒布し「プウラ」にて第二回犂耕を行ふ元肥十分腐熟するに至れば刈耙にて土塊を碎き第三回犂耕及耙耕を行ふ。斯くして播種二三日前第四回犂耕及耙耕をなし手耙にて地面を均一ならしめ鍬にて作條を切り以て播種の準備を調ふ。

（五）肥料　黄麻に對する肥料效果の顯著なること多く他作物に例小なきのみならす吸收率の多きこと殆んど施用量の最上限度を疑はしむる程なり。故に一般農家にありても經濟の許す範圍に於て可成多量の施肥を必要とするものなり。左に當場に於て紅皮種に就き明治三十七年より同四十年に至る四ケ年間に亙り施行せる肥料試驗成績を示さん。（當場發行農事試驗成績第二、三、四の二及五の二報參照）

自明治三十七年至同四十年累年反當粗纖維（幼麻）收量

試驗別	三十七年	三十八年	三十九年	三箇年平均	平均收量列次
無肥料	貫 二六・七〇〇	貫 五二・〇〇〇	貫 五〇・八五〇	貫 四三・一八三	五
普通肥料五割減	四四・七〇〇	八〇・〇〇〇	七四・四〇〇	六六・三六七	四
普通肥料	五七・八〇〇	八五・〇〇〇	八七・五〇〇	七六・七六七	三
普通肥料五割增	五九・〇〇〇	九三・五六〇	一〇〇・五〇〇	八四・三五三	二
普通肥料二倍	六一・六〇〇	一〇四・〇〇〇	一一三・五五〇	九三・〇五〇	一

備考　前表中普通肥料とあるは反當堆肥百五貫匁、人糞尿三百貫匁、藁灰十貫匁を施用せしものにして元肥中堆肥は整地の際に藁灰は播種の際に人糞は追肥として草丈二尺內外迄に二回に等分し同量の水を以て稀釋分施せり。

以上成績により經濟上より打算するも尙普通肥料用量を增進するの必要を認め翌四十年度より從

來の普通肥料を變更し前表普通肥料五割增卽ち堆肥二十五貫匁人糞尿四百五十貫匁藁灰十五貫匁を普通肥料として實施するに至れり。

然るに其後試驗地の擴張と共に製造堆肥に不足を告げ到底全試驗地に之を使用すること不可能なるに至り、堆肥代用として總督府專賣局にて廢棄せられつゝありし煙骨を利用し反當二貫匁を四十四年度より施用せり。而して煙骨の含有加里分多きを以て同時に藁灰の施用を全廢し人糞尿のみ從前の通り之を施用し以て今日に至れり。尙黄麻肥料問題に關しては普通肥料用量試驗、三要素試驗及三要素適量試驗等目下試驗經續中なるも、他日試驗完結の上發表するに至らば肥料用量と收量及經濟上に及ぼす關係を闡明するに至らん。

（六）播種　當場に於ける播種期播種量畦幅株間及播種方法を示せば次の如し。

播種期　四月

反當播種量　八合（甲當七升八合余）

畦　幅　一尺二寸（採種用區一尺五寸）

株　間　間引き後三四寸とす

播種方法は鍬にて淺き作條を切り播種前水選乾燥し置きたる種子を手にて播種し鍬にて輕く覆土す。土地の乾濕程度により四五日乃至一週間にて發芽す。

（七）管理　播種後に於ける管理の主なるものは除草中耕間引及灌漑にして除草は中耕を兼ね三回間引は凡て女にて草丈五六寸の時第一回七八寸の際第二回の間引を行ひ最後の間引は草丈一尺內外に達したる際行ふものにして株間距離を三四寸とす。灌漑は天候及土地乾燥の程度に依り年々一定すること能はざるも、當場にありて平均三四回之を行ふ。其の法は早朝或は夕刻に至り畑全面

に灌水し十分浸潤したる後（夕刻に灌水せる場合は一夜間放置し翌朝に至り）排水す。

（八）病蟲害　害蟲として蚜蟲金龜子類の發生することなきに非らざるも、生育及收量に影響を及ぼすが如き被害なし。唯病害中黄麻立枯病最も甚だしく黄麻白絹病之に次き、黄麻白澁病、黄麻苗枯病、黄麻斑点病、及黄麻褪點病等の諸病菌發生し、虫害に比し遙に被害大なり。就中黄麻立枯病及白絹病の如き將來大に注意を要する病害にして之が驅除豫防方法の如き決して等閑に附すべからず。其他根に蟲瘻を生し腐敗枯死に至らしむる黄麻根腐病の被害又鮮少ならす（白絹病に關しては當場發行總督府農事試驗場特別報告第二號及第四號を、黄麻立枯病に關しては當場發行出版第一〇七號黄麻立枯病（豫報）或は臺灣農事報大正五年十一月號參照）

（九）收穫及收量　收穫期の早晩は直に纖維收量及之が品位に關するものなり。即ち收穫時期早に失する時は纖維白色にして一見良質の觀あるも强靱を缺き、且收量大に減少するものなり。又晩きに失する時は纖維收量多きも光澤を缺き粗剛となり剝皮又困難となる故に之が適期を過ぎざる樣注意するを要す。而して收穫の適期は製造法を異にするに依り之を二樣に區別せざるべからず。即ち

（一）第灣在來法に依り粗製纖維（幼麻及粗麻）製造の場合。

（二）生莖浸水法に依る精製纖維製造の場合之なり。

（一）土質により或は土地肥瘠施肥用量の多少及栽培法の精粗如何等により著しき差ありと雖、播種後四五ヶ月に至りて葉片硬化して稍黄色を帶ひ下葉漸次枯死落葉し莖稈は各品種固有の色を呈すべく、莖上部に技椏を分出し且技條に開花せる花將に結莢せんとする頃を收穫の適期とす。

（二）生育狀態前項と同一にして將に開花せんとする時期即ち播播後三四ヶ月頃を適期とす。本法に

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

より製造する纖維は收量の多寡如何を云爲するに比し、纖維の細大、强弱、及光澤の良否等品質に關する諸點を重要視せざるべからざるを以て、早きに失するよりも晩きに失せざる樣注意するを肝要とす。

以上の時期に達せば拔き取りに便せんかため收穫の前日土地濕潤となる程度に灌水し置き翌日に至り手にて引き拔き直に竹刀にて生葉を除去し（生莖浸水法に依る場合は生葉を除去せざるも不可なし）纖維製造所に運搬して製造す。

當場に於ける粗製纖維（幼痲）及精製纖維收量次の如し。

紅皮種外三品種に就き明治三十七年より同四十二年に至る六ヶ年間試驗せる累年成績。

（一）反當生莖收量

品種名	三十七年	三十八年	三十九年	三箇年平均	四十年	四十一年	四十二年	三箇年平均
紅皮種	貫 九七八・五〇〇	貫 一,一三六・六五〇	貫 一,〇八六・〇〇〇	貫 一,〇六七・〇五〇	貫 六三八・六七〇	貫 九一三・二〇〇	貫 一,二五八・二〇〇	貫 九三六・六九〇
青皮種	九八一・五〇〇	一,二三三・三〇〇	九四二・〇〇〇	一,〇五二・二六七	六四一・七〇〇	八四七・五〇〇	一,三三七・七〇〇	九四二・三〇〇
中生赤	八〇九・〇〇〇	一,二〇三・三〇〇	九〇三・〇〇〇	九七一・七六七	七九五・六〇〇	七三五・〇〇〇	一,三七六・四〇〇	九六九・〇〇〇
長莢青種	八二八・〇〇〇	一,〇七九・九五〇	九三四・五〇〇	九四七・四八三	八四六・九〇〇	七五九・九〇〇	一,〇二一・八二五	八七六・二〇八

（二）反當生皮（生粗痲）收量

品種名	三十七年	三十八年	三十九年	三箇年平均	四十年	四十一年	四十二年	三箇年平均
紅皮種	貫 三三九・五〇〇	貫 三九六・六五〇	貫 三五五・五〇〇	貫 三六三・八八三	貫 二五九・六七九	貫 三六五・五三二	貫 四三五・八五一	貫 三五三・六八七

青皮種	二五五・五〇〇	三九六・六五〇	二八四・二五〇	三一二・一三三	二四〇・四五〇	二九六・六六二	三八一・一八八	三〇六・一〇〇
中生赤	二三〇・〇〇〇	三八三・三〇〇	二三一・〇〇〇	二八一・四三三	二二七・六四七	二五四・一七四	四三一・三三一	三〇四・七一七
長莢青種	一九八・五〇〇	三一三・九五〇	二五〇・五〇〇	二五四・三一七	二三三・七三三	二五七・八八四	三一一・〇六七	二六七・五六一

（三）反當粗製乾纖維（幼麻）收量

品種名	三十七年	三十八年	三十九年	三箇年平均	四十年	四十一年	四十二年	三箇年平均
紅皮種	貫 五七・一〇〇	貫 八七・八〇〇	貫 八八・七二五	貫 七七・八七五	貫 六五・六六七	貫 八九・三三二	貫 九二・六四四	貫 八二・五四四
青皮種	五二・五〇〇	八六・六五〇	七四・四〇〇	七一・一八三	五九・三三五	七二・五〇三	九五・一二一	七五・六五三
中生赤	四一・〇〇〇	七八・九九五	六四・四二五	六一・四七三	五〇・五二八	五〇・〇八五	九〇・二六一	六三・六二五
長莢青種	四五・三〇〇	七五・〇〇〇	五二・〇五〇	五七・四五〇	四七・一四七	五五・四〇九	六五・五七九	五六・〇四五

（四）生莖に對する乾纖維（幼麻）步合

品種名	三十七年	三十八年	三十九年	三箇年平均	四十年	四十一年	四十二年	三箇年平均
紅皮種	割 〇・五八一	割 〇・六九二	割 〇・八一七	割 〇・六九七	割 一・〇二八	割 〇・九七八	割 〇・七三六	割 〇・九一四
青皮種	〇・五三五	〇・七〇三	〇・七九〇	〇・六七六	〇・九二五	〇・八五五	〇・七一一	〇・八三〇
中生赤	〇・五〇七	〇・六五六	〇・七一三	〇・六二五	〇・六三五	〇・六八一	〇・六五六	〇・六五七
長莢青種	〇・五四七	〇・六九四	〇・五五七	〇・五九九	〇・五五七	〇・七二九	〇・六四二	〇・六四三

備考　前四表共明治三十七年より同三十九年に至る三箇年と明治四十年より同四十二年に至る三箇年と二種に區別せるは前述せる如く施肥用量を異にするを以て（第五項肥料の部參照）各別に平均收量を示せり。

次に明治四十三年より大正四年に至る五ヶ年間（大正三年度は暴風雨被害のため成績確實ならざるを以て之を省けり）深紅皮種外八品種に就き試驗せる累年成績を示さん。

（一）反當生莖收量

品種名	四十三年	四十四年	大正元年	同二年	同四年	五箇年平均	平均收量列次
淡紅皮種	貫 二,〇六三·七〇〇	貫 一,四三一·〇〇〇	貫 一,四六七·二一〇	貫 一,三七七·〇〇〇	貫 一,二七九·五〇〇	貫 一,五二三·六八二	一
深紅皮種	二,一二七·九〇〇	一,三六二·〇〇〇	一,三三一·八二〇	一,一二三·〇〇〇	一,二〇一·五〇〇	一,四二九·二四四	二
印度青皮種	一,九五四·二〇〇	一,三二九·〇〇〇	一,三三〇·四一〇	一,二三三·〇〇〇	一,〇五九·〇〇〇	一,三八一·一二三	四
爪哇青皮種	一,八六六·六〇〇	一,三九二·〇〇〇	一,四四四·八六九	一,一五八·〇〇〇	一,二四〇·五〇〇	一,四二〇·三九四	三
早生赤	一,四五九·二〇〇	一,二九九·〇〇〇	一,三〇〇·三七一	一,〇七七·〇〇〇	一,二七五·〇〇〇	一,二八二·一一四	六
早生青	一,〇九一·一〇〇	一,二五七·〇〇〇	一,五七六·一五八	一,〇五六·〇〇〇	一,二六〇·〇〇〇	一,二四八·〇五二	八
晩生赤	一,四九一·六〇〇	一,一九四·〇〇〇	一,三六八·四六五	一,〇五九·〇〇〇	一,三〇八·〇〇〇	一,二八四·二一三	七
晩生青	一,六二〇·〇〇〇	一,二六三·〇〇〇	一,二六六·一五三	一,一五二·〇〇〇	一,二四三·五〇〇	一,三〇八·九三一	五
短莢青種	一	一	一	一,〇五六·〇〇〇	一,三五四·五〇〇	一,二〇五·二五〇	一

（二）反當生皮（生粗麻）收量

品種名	四十三年	四十四年	大正元年	同二年	同四年	五箇年平均	平均收量次列
淡紅皮種	貫 八二一·八〇〇	貫 四八九·〇〇〇	貫 六四四·四〇〇	貫 四八六·〇〇〇	貫 三七三·五〇〇	貫 五六〇·九四〇	一
深紅皮種	八三二·八〇〇	四五六·〇〇〇	六七五·三〇〇	三五三·四九〇	三四八·〇〇〇	五三三·一一八	二

印度青皮種	六四六・八〇〇	四〇八・〇〇〇	四五九・三〇〇	三六〇・〇〇〇	二八二・〇〇〇	四三一・二二〇	六
爪哇青皮種	六九六・〇〇〇	四二九・〇〇〇	五四四・五九〇	三七五・〇〇〇	四〇三・八〇〇	四八九・六七八	三
早生赤	六九〇・三〇〇	三七二・〇〇〇	四九一・一六〇	三三一・六五〇	三一九・八〇〇	四四〇・九八二	五
早生青	四三五・〇〇〇	四一一・〇〇〇	六三二・三一〇	二九一・〇〇〇	三七七・四〇〇	四二九・三四二	七
晩生赤	四八八・一〇〇	三六六・〇〇〇	五四〇・七二〇	三五七・八四〇	三六〇・〇〇〇	四二二・五三二	八
晩生青	五九〇・七〇〇	三八七・〇〇〇	五二一・五五〇	四〇五・〇〇〇	三二六・四〇〇	四四六・一三〇	四
短莢青種	―	―	―	三六六・〇〇〇	四一四・〇〇〇	三九〇・〇〇〇	―

(三)反當粗製纖維(幼麻)收量

品種名	四十三年	四十四年	大正元年	同二年	同四年	五箇年平均	平均收量列次
淡紅皮種	貫 一三〇・二〇〇	貫 一〇五・六〇〇	貫 一一〇・五五〇	貫 一一〇・二二〇	貫 九六〇・〇〇〇	貫 一一〇・五一四	一
深紅皮種	一三八・三〇〇	九五・四〇〇	九四・八一八	八五・〇五〇	七九・三五〇	九八・五八四	二
印度青皮種	一〇八・三〇〇	八四・九〇〇	八一・〇三〇	八七・一五〇	六五・二五〇	八五・三二六	五
爪哇青皮種	一一三・一〇〇	八六・四〇〇	九四・七四〇	九五・七六〇	九五・八五〇	九七・一七〇	三
早生赤	八〇・七〇〇	八〇・一〇〇	八三・七五三	七七・五五〇	七五・四五〇	七九・五一一	八
早生青	七五・三〇〇	九二・一〇〇	一一九・一九三	七七・二五〇	八五・三五〇	八九・八三九	四
晩生赤	八六・四〇〇	七七・七〇〇	九〇・五七九	七八・八一〇	八二・〇五〇	八三・一〇八	七
晩生青	九九・六〇〇	七九・八〇〇	八五・三八九	七八・四八〇	七八・九〇〇	八四・四三四	六
短莢青種	―	―	―	八九・九四〇	一〇三・六五〇	九六・七九五	―

(四)生莖に對する乾纖維(幼麻)步合

品種名	四十三年	四十四年	大正元年	同二年	同四年	五箇年平均
淡紅皮種	割 0・六三一	割 0・七三五	割 0・七五三	割 0・八00	割 0・八五一	石 0・七五四
深紅皮種	0・六五一	0・七00	0・七一二	0・七五七	0・七五0	0・七一四
印度青皮種	0・五五四	0・六三九	0・六0九	0・七0七	0・六一六	0・六二五
爪哇青皮種	0・六0七	0・六二一	0・六五六	0・八二七	0・七七二	0・六九七
早生赤	0・五五二	0・六一七	0・六四四	0・七二0	0・五九二	0・六二五
早生青	0・五二0	0・七三三	0・七五六	0・七三二	0・六一九	0・六七二
晩生赤	0・五七八	0・六五一	0・六六二	0・七四四	0・六二七	0・六五二
晩生青	0・六一四	0・六三二	0・六八三	0・六八一	0・五九二	0・六四0
短莢青種	—	—	—	0・八五二	0・七六五	0・八0九

備考　前表中短莢青種は大正二年よりの試驗成績なるを以て二箇年平均數を示せるものなり以下之に準ず。

（五）反當精製纖維收量

品種名	四十三年	四十四年	大正元年	同二年	同四年	五箇年平均	平均收量列
淡紅皮種	貫 六九・五二八	貫 九七・三0八	貫 六四・四八五	貫 七八・九0二	貫 六二・八二三	貫 七四・六0九	一
深紅皮種	七三・五六八	八四・七一六	六三・九一八	六七・二0八	五七・七九二	六九・四四0	二
印度青皮種	六九・二六三	六五・八一九	五八・六二九	五七・七0四	五0・四0八	六0・三六五	七
爪哇青皮種	六五・三四七	八二・六八五	五九・四一八	六六・五八五	五九・四二0	六六・六九一	三
早生赤	五七・二七八	七五・八六二	五四・六一六	六三・一一二	六六・九三八	六三・五六一	五
早生青	四二・二一一	六八・三八一	五八・一七八	五九・三四七	七0・一八二	五九・六六0	九

晩生赤	五六・一五七	六六・八六四	五三・三七〇	六四・一七五	七一・九四〇	六二・五〇一	六
晩生青	五五・三〇九	七五・五二七	六〇・二七七	六六・八一六	六六・六五二	六四・九一六	四
短莢青種	—	—	—	六四・九四四	六七・七二五	六六・三三五	—
紅皮種	六四・三二三	六九・九三六	五四・八四〇	六二・一七五	三八・二一六	五七・九〇〇	一〇
青皮種	六〇・一三五	七三・二六〇	五三・五〇八	四九・〇〇二	三九・七三七	五五・一二八	一一
中生赤	六二・二六八	七九・一二七	五八・五一六	四八・六九七	五〇・五三四	五九・八二八	八
長莢青種	五一・九〇五	四四・五八八	四〇・八七三	二八・八七二	三〇・〇一〇	三九・二五〇	一三

(六)生莖に對する乾精製纖維步合

品種名	四十三年(割)	四十四年(割)	大正元年(割)	同二年(割)	四年(割)	五箇年平均(割)
淡紅皮種	〇・三一七	〇・六八〇	〇・四四〇	〇・五七三	〇・四九一	〇・五〇〇
深紅皮種	〇・三一三	〇・六二三	〇・四八〇	〇・五九九	〇・四八一	〇・四九九
印度青皮種	〇・三三五	〇・五六四	〇・四四一	〇・四六八	〇・四七六	〇・四五七
爪哇青皮種	〇・三四七	〇・五九四	〇・四一一	〇・五七五	〇・四七九	〇・四八一
早生赤	〇・三三一	〇・五八四	〇・四二〇	〇・五八六	〇・五二五	〇・四八九
早生青	〇・三五三	〇・五四四	〇・三六九	〇・五六七	〇・五五七	〇・四七八
晩生赤	〇・三四一	〇・五六〇	〇・三九〇	〇・六〇六	〇・五五〇	〇・四八九
晩生青	〇・三六一	〇・五九八	〇・四七六	〇・五八〇	〇・五三六	〇・五一〇
短莢青種	—	—	—	〇・六一五	〇・五〇〇	〇・五五八
紅皮種	〇・三五六	〇・六二〇	〇・四三六	〇・五一三	〇・五三三	〇・四九二
青皮種	〇・四八五	〇・六〇〇	〇・四〇〇	〇・四七九	〇・五九〇	〇・五一一

中生赤	〇・三一〇	〇・六七〇	〇・四二五	〇・五〇一	〇・四四八	〇・四七二
長莢青種	〇・五二五	〇・四一四	〇・四〇〇	〇・四〇一	〇・五二一	〇・四五二

（一〇）採種　普通繊維採取の目的を以て栽培するものと同一栽培法により別に採種用區（畦巾一尺五寸株間は間引後四五寸とするの差あり）を設け繊維採取時期に達するも收穫することなく其儘放置し開花結實せしむ十月乃至十一月頃莢稍黄褐色を呈し内部に包藏せる種子又少しく褐色を呈するに至れば各品種固有の形體特徴を具備せる生育良好なるもののみを選別し、枝椏の分岐せる部分より鎌にて刈り取り、七八日間陽乾し莢十分硬化せば棣枷或は木槌にて輕く叩きつゝ莢より種子を分離調製し、尚四五日間十分乾燥して貯藏す。

當場大正四五年に於ける成績調査に依れば種子收量及一升の重量次の如し。

反當累年種子收量及一升の重量

品種名	種子收量 大正四年	種子收量 大正五年	種子收量 二箇年平均	平均收量列次	種子一升の重量 大正四年	種子一升の重量 大正五年	種子一升の重量 二箇年平均
淡紅皮種	石 〇・四〇五	石 〇・六九〇	石 〇・五四八	五	貫 〇・三二一	貫 〇・三二六	貫 〇・三二四
深紅皮種	〇・六九〇	〇・五五五	〇・六二三	二	〇・三〇一	〇・三二二	〇・三一二
印度青皮種	〇・四五〇	〇・六九〇	〇・五七〇	四	〇・三四五	〇・三四五	〇・三四五
爪哇青皮種	〇・五五五	〇・六三〇	〇・五九三	三	〇・三三八	〇・三四六	〇・三四二
早生赤	〇・四五〇	〇・四八〇	〇・四六五	八	〇・三二一	〇・三一三	〇・三一七
早生青	〇・五二五	〇・四二〇	〇・四七三	七	〇・三三一	〇・三四二	〇・三三七
晩生赤	〇・四五〇	〇・四〇五	〇・四二八	一〇	〇・三二八	〇・三三三	〇・三三一

晩生青	0・六四五	0・四九五	0・五七〇	四	0・三四〇	0・三三四	0・三三七
短莢青種	0・四五〇	0・三〇〇	0・三七五	三	0・三二六	0・三一三	0・三二〇
早生短莢青種	0・四六五	0・三一五	0・三九〇	二	0・三一八	0・三二六	0・三二二
紅皮種	0・五四〇	0・四〇五	0・四七三	七	0・三四二	0・三一七	0・三三〇
青皮種	0・五八五	0・三一五	0・四五〇	九	0・三四八	0・三四三	0・三四六
中生赤	0・五二五	0・七三五	0・六三〇	一	0・三三九	0・三一八	0・三二九
長莢青種	0・五一〇	0・五二五	0・五一八	六	0・三一四	0・三一八	0・三一六
長莢斑縞種	0・四〇五	0・五四〇	0・四七三	七	0・三一二	0・三〇一	0・三〇七

第二節　嘉義廳下に於ける黄麻栽培法

（一）地形及土質　廳下主産地たる打猫北堡、嘉義堡、他里霧堡西龍蛟潭堡及鹽水港堡等各地一帶の地方は悉く平坦地にして山腹地或は傾斜地等に栽培するもの殆んどなく、主として田畑地に栽培す。而して畑作にありては各地共多く灌漑水の便なく乾田作及水田作にのみ之を有する場合あり。土質は普通黑色を帯へる粘質壤土、稀に壤土にして砂礫多き地及輕鬆砂質地に栽培するもの少なし。之れ栽培者多年の經驗上能く本作物本來の性狀を知悉せるに因るならん。然れども栽培者一般に、栽培地選定に當り栽培上最も必要條件の一たる灌漑水に關する注意を度外視する傾向あるは勿論天候其他水量不足より生ずる不可抗力の場合なきに非ざるも、尚仔細の注意を拂ふに於ては確に今日以上に向上せしむるを得ん。如斯注意の欠如は廳下黄麻作不振の主因と云ふも敢て過言ならざるべし。故に將來此點に對し十分の注意を以て農民を指導啓發するは目下の急務なりとす。

臺灣總督府農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

（二）品種　廳下に分布する品種は紅皮種、深紅皮種、淡紅皮種、青皮種及長莢青種（オリトリアス）等にして栽培面積及區域の最も廣きは紅皮種及青皮種とす。深紅皮種及淡紅皮種は全廳下に亙りて栽培せらるゝも面積は前二者に比し劣り、長莢青種の如きは僅に東石港支廳下龍蛟潭堡義竹圍庄附近に散見するに過ぎず。

一部地方を除き一般に品種に關する觀念薄く、之が改良選別等に留意するもの甚稀にして異品種の混淆せるまゝ播種するもの及草丈低く且枝梢多生せる劣等品種の各地に栽培せらるゝを見る。今各品種に就き栽培上利害得失及之が優劣に關し調査するに同一品種にして栽培地方を異にするにより同一ならざるものありと雖、如斯きは唯古くより其地に栽培し來れる結果之を優良多收なる品種と思意する一の習慣及誤信に過ぎずして決して各品種を比較栽培したる具體的立證にあらざるや勿論なり。其他土地の肥瘠栽培法の精粗等又密接なる關係あるが如し。左に當場に於ける分類を基礎とし土名、分布狀態及之が優劣を調査のまゝ別記せば左の如し。

（一）品種

當場分類品種名	土名		
	嘉義西堡	打猫北堡	龍蛟潭堡
淡紅皮種	紅黃麻	鱗魚皮或は梨仔皮	―
深紅皮種	臙脂麻	臙脂麻	―
紅皮種	紅黃麻	紅骨（紅黃麻）	紅皮種
青皮種	白黃麻	白骨（白黃麻）	白皮種
長莢青種	―	―	外國種

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

(二)各品種の分布狀態及優劣

當場分類品種名	嘉義西堡	打猫北堡	龍蛟潭堡
淡紅皮種	草丈高く收量多きを以て栽培者最も多し	草丈深紅皮に比し低きも皮部厚く收量多きを以て栽培者多し	栽培者なし
紅皮種	草丈低く收量淡紅皮種に比し少なきを以て栽培者少なし	草丈低く收量少なきを以て栽培者少なし	皮部薄く收量少なきを以て栽培者少なし
青皮種	（同上）	收量少なく草丈低きを以て現今栽培する者なし	皮部厚く收量多きを以て栽培者多し
長莢青種	なし	なし	試驗的に栽培するのみにして甚少なし

(三) 輪栽法　輪栽法の如何は地方により又畑作、乾田作及水田作により各之を異にせり。即ち嘉義西堡湖仔內庄、崎仔頭庄、柳仔林庄、下路頭庄及車店庄等の如く水田作を行ふ地方に限り連作をなすと雖普通輪作を行ふもの多し。之れ畑地に於ける連作は病蟲害の被害を多からしむるのみならず皮部薄く且收量漸次減少するを以て上畑にあらざれば連作することなく二年乃至四五年一回の輪作を行ふもの多し左に各地に於ける輪栽方法を示さん。

(一)嘉義西堡

湖仔內庄、崎仔頭庄、柳仔林庄、下路頭庄及車店庄の各庄は前述の如く水田作を行ふものにして降雨順調なる場合は水稻作(第一、二期)を有利とするも、否らざる時は第一期黃麻第二期水稻作(第二期)を行ふを有利とす。而して黃麻作は跡地の地力を甚しく減耗せしむる如く唱ふる者あるも決して否らず生葉支根及毛根(收穫の際該地方にては黃麻鑿を以て支根及毛根を切り去り直根のみと

なし拔き取るを以てなり）は跡作第二期水稻の肥料として效果甚大なりとす。故に該地方に於ける黃麻栽培者の多くは本法を採用する以所なり輪栽法次の如し。

黃麻―第二期水稻（烏咬、大姑姆、店葉、隱葉種）{甘藷／蕃仔豆}黃麻

（二）打猫北堡

舊庄游厝庄及大埤頭庄等は主なる產地にして產額最も多きは舊庄とす、該地には臺灣製麻株式會社出張員駐在し該地方附近に於ける黃麻作の奬勵をなしつゝあり。各地とも畑作及乾田作の二法にして乾田作に依るもの多し。

（イ）黃麻―第二期水稻（岸仔圓、粒種）―蕃仔豆―黃麻

（ロ）黃麻{甘藷―陸稻／大根―黃麻}―{大根／蕃仔豆}黃麻

（三）龍蛟潭堡

該地方は五六年前迄は一戸の作付面積五六分乃至七八分內外を栽培するもの多數なりしも近年甘蔗作發展に伴ひ一戸作付面積五六分位を以て最多とするに至れり。多く畑地作を行ふ義竹圍庄、過路仔庄、頭竹圍庄、牛稠底庄及芋仔寮庄等主產地にして義竹圍庄產額最も多し輪栽法次の如し。

黃麻{小麥―黃麻／蕃仔豆―甘蔗―黃麻／甘藷―蕃仔豆―黃麻}

（四）整地　田畑及前作物の種類に依り多少差異あるも犁耕二三回乃至四回之を行ひ刈耙及石輪（龍蛟潭堡の如き畑地）にて土塊を破碎し手耙を以て地表を均一ならしめ（打猫北堡及龍蛟潭庄にては手耙は雜草多き場合及前作物甘蔗なる場合に限り用ふ）たる後犂にて作條を作るを普通とす。

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

（五）肥料　一般に施用量少なく且肥料單純にして土糞最も多く稀に人糞尿を施すものあり、卽ち嘉義西堡にありては播種の際土糞甲當七八千斤を作條中に撒布し其上に播種するのみ爾後一回だも追肥等を施すことなく甚しきに至りては無肥料栽培を行ふもの少なからず。

打猫北堡にては播種の際土糞甲當四五千斤を播種後種子上に撒布し後追肥として培土の際同量の土糞を施用す。

龍蛟潭堡にては犂耕前元肥として土糞甲當平均一萬五千斤乃至二萬斤を（蕃仔豆跡地の場合には一萬五千斤甘蔗跡地には二萬斤）畑全面に撒布犂耕す追肥として稀に人糞尿甲當一萬斤を草丈一尺內外に生長せる時施肥することあり。

（六）播種　各地に施ける播種期播種量播種方法畦幅及株間を示せば次の如し。

種別	嘉義西堡	打猫北堡	龍蛟潭堡
播種期	自三月下旬至四月中旬（清明前後十日）	田三月上中旬 畑自三月中旬至四月	三月中旬
甲當播種量	四升	三升乃至四升	四升
畦幅	一尺五六寸	一尺四五寸	一尺五六寸
株間	間引きて五六寸	間引きて四五寸	同上

備考　前表によれば畦幅一尺四五寸乃至一尺五六寸なるも犂にて作業するを以て各列齊一ならざれば勿論なり。又播種の如き當場に於ける甲當七升八合に比すれば其半量強なるも前述の如く畦幅齊一ならざると播種の際一々秤量せるにあらざれば之を以て全然信する能はずと雖調査のまゝ揭載せり。

播種方法を述べんに龍蛟潭堡にありては手にて播種したる後手耙を以て覆土を行ひ、尙石輪を縱

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

に(土塊大なる時は横に廻轉す)廻轉しつゝ鎮壓せしむ。打猫北堡に於ては手にて嘉義西堡にては竹管仔(一種の播種器にして黄麻、胡麻の如き小粒種子播種用に供す全長二尺一二寸口徑一寸六七分の竹管にして底部に節を付し之に小孔を穿ちて種子の落下するに便ならしむ上端四五寸の處より半ば位切り取りて把持に便せり)中に種子を充たし、之れを振動しつゝ播種す。

覆土法は兩堡共糞箕(左右兩把手に繩を附し重量を大ならしめんかため適宜に土塊を盛る)或は甕仔(往時對岸支那より輸入せられし酒は凡て該甕仔に詰め輸送せられたるものにして深さ一尺一寸口徑三寸内外中央膨大せる部分の外圍二尺八寸あり籾六升位を容る農家は之を種子貯藏用に利用することあり)に砂を入れ口内部に引き繩を附する横木を脱出せざる樣挿入し、人力にて作條の上を引きつゝ覆土し置く時は何れも四五日を經て發芽すべし。

(七) 管理　播種後に於ける管理は除草、中耕、間引、培土及灌漑等にして嘉義西堡にありては前述せる如く他地方と特殊なる水田作法を行ふ之か方法を記述せば次の如し。

除草は土質及雜草繁茂の程度により差異あるも普通一二回にして間引き前耙仔を以て中耕を兼ね行ふ。間引は普通一回草丈一尺内外に生長せる時間引て株間を五六寸とす此際列中にある雜草の除去をも兼ね行ふ後四五十日を經て草丈二尺内外に生長せば深さ五六寸に耙仔及犂にて中耕を兼ね培土を行ふ其の理由とする點は灌水後根の腐敗を豫防せんかため又一は風雨のため莖稈の仆伏するを防ぐにありと云ふ。而して灌水量は草丈伸長の程度に從ひ漸次増加するものにして六月上中旬に至り草丈五尺内外に達せば水稻と同じく十分灌漑し排水することなく其儘收穫期に至るまで儲水するものとす。

打猫北堡にありては除草一回(間引前或は同時に行ふ)間引一回(或は行はざることあり)四月中旬

頃草丈四五寸の際に行ひ培土は五月中旬に至り一回行ふのみにして灌漑等の手入を行ふことなし。

龍蛟潭堡にありては降雨の有無に依り差異あるも除草は普通二三回中耕を兼ね耙仔にて行ふ。間引は草丈四五寸に達せる時一回行ふもののみにして株間距離は肥沃の土地なる時は二三寸瘠地にありては四五寸とす。而して培土は生育の良否如何により耙仔或は犁を以て一回五月中下旬に行ふ。

（八）病蟲害　各地共病蟲害の被害少なく之かため生育及收量等に惡影響を及ぼしたる實例なし。強ひて之を求むれば嘉義西堡地方に於ける金龜子類、「ヒメアカキリバ」蚜蟲等の蟲害白絹病及立枯病の被害多少あり。又龍蛟潭堡地方にては「ヒメアカキリバ」及「タイワンオホコホロギ」（粘質地よりも砂質地に多く甘蔗跡地よりも甘藷跡地に多し）の被害あるに過ぎず。

（九）收穫及收量　收穫期の特徴は草丈十分生長し下葉漸次脫落するもの多く莖葉又黃褐色の度を增加し且莖頂部に至りて分枝せる枝椏上に開花せる多數の小花結實し初むる時にして、此の時期を以て收穫の適期とす。

此の期に達せば嘉義西堡にては灌水せるまゝ收穫す其方法は一人黃麻鏨（圓鍬仔の小形なるものにして長さ三尺二三寸木製の柄を嵌入せるもの）にて一莖毎に前後或は左右一回宛根元に副ひ恰も圓形を畫く如くに土中に挿入し支根及毛根を切り去り主根のみとなしつゝ全畑に及ぶ他の一人は之を拔き取り竹刀（長二尺五六寸口徑七八分位の圓竹にして柄部七寸位を殘し半面を削りて刀狀となせるもの）を以て生葉を除去し一定の束となし製造所に運ひて製造す。

打猫北堡に於ける從來の收穫方法は多く根より引き拔きたるも近來製麻會社と契約栽培せるもの

及同會社へ販賣せんとするものは凡て根元より甘蔗刀を以て切り倒し生葉附著のまゝ多く圃場の一に角於て製造に從事するものとす。

龍蛟潭堡にありては收穫前降雨に際會せば手にて引き拔くものありと雖降雨なき場合は引き拔き法困難なるを以て多く犁（犁壁を外す）にて畦の兩側を犁き分け收穫す。而して生葉は竹刀にて直に除去するか或は製造の際手にて扱き落すものとす。左に收穫時期及甲當收量を示さん。

堡名	收穫期	收量 上畑（田）	收量 中畑（田）	收量 下畑（田）	上品價格 直行	上品價格 加二	中品價格 直行	中品價格 加二	下品價格 直行	下品價格 加二
		斤	斤	斤	円	円	円	円	円	円
嘉義西堡	自七月下旬 至八月中旬	幼 四,000	三,000	二,000	自七・000 至八・000	—	自六・000 至七・000	—	至四・000 自五・000	—
打猫北堡	田 自七月下旬 至八月上旬 畑 八月下旬	粗 四,000	三,五00	二,000	三・九00	—	三・六00	—	自三・二00 至二・八00	—
龍蛟潭堡	八、九月	幼 二,000	一,五00	一,000	五・000	六・二00	四・五00	五・000	四・000	四・五00

備考　前表中幼とあるは幼麻、粗とあるは粗麻を示す。價格は大正五年度收穫當時地元相場を示せるものにして直行及加二とは仲買商人と取引する舊慣重量なり。卽ち直行とは普通重量を示し加二とは加二割增しの重量とす。

（一〇）採種　嘉義西堡地方にて行ふ採種法に二種あり。甲は收穫の際黃麻畑地の一隅或は一側に跡作の作業上妨害とならざる様所要數を收穫することなく。其まゝ殘し置き開花結實後種子成熟するに至れば刈り取り十分陽乾し叩きて採種す。種子は尙一二日乾燥後竹筒或は甕等に容れ貯藏す。然れども本法に依るときは種子收量多きも翌年に至り草丈低く且分枝椏多く品位惡變すと稱し種子の販賣を目的とする以外之を忌むもの多し、乙は該地方黃麻收穫跡地或は附近水田等にて屢々

散見する方法にして移植採種法或は摘心採種法とも稱すべき方法にして前法と異なり採種用に供せるため纖維收量を減する（採種後の生莖は剝皮困難なるのみならず纖維硬化するを以て纖維製造に供することなく放棄するもの多し故に採種に供用せる分の纖維收量を減する割合なり）等の缺點なく頗る經濟的方法なり。卽ち收穫の際米麥其他の作物に於ける拔穗と同じく全圃中生育良好且分枝椏少なきもの或は全然分枝せざるもの丶みを選み莖上部より二尺內外に切斷し（分枝せるものは分枝せる正下より切斷す）之を畦畔に沿ひ水田中に挿入し活著後開花結實するを待ち十月中下旬水稻收穫前鎌にて刈取り前法と同樣に採種貯藏す。

本法に依る時は草丈高く品位惡變する憂なしとて一般に自家用種子は本法を採用せり。

打猫北堡及龍蛟潭堡地方にありては嘉義西堡と異り乙法によるもの少なく專ら甲法を採用せり卽ち九月下旬殘し置きたるもの開花結實し成熟するに至れば先端を切り取り適宜束となし雨に濡れさる樣軒下に吊し置き播種前に至り二三日間陽乾後叩きて採種するを普通とす、打猫北堡にて種子收量甲當一石價格一升上八十錢中六十錢下四十錢內外なり。（種子一升嘉義西堡五十錢乃至二圓龍蛟潭堡四十錢乃至八十錢內外）

第三節　臺中廳下に於ける黃麻栽培法

一、地形及土質　廳下に於ける主產地は北斗員林地方にして多く畑地或は灌漑に不便なる地に栽培し田地に栽培するもの其數少なし。土質は地方により異なるも普通黑色及暗灰色の粘土及粘質壤土に栽培するもの多く砂質及礫質地に栽培するもの殆んど稀なり。

二、品種　廳下一般に分布せらるゝ品種は深紅皮種、淡紅皮種、紅皮種及靑皮種にして作付面積最

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

も廣きは紅皮種なりとす。而して栽培者の品種の優劣及其他に關する觀念は嘉義廳下と同しくして毫も之が改良等に留意するものあるを見ず。卽ち他品種殊に劣等品種の混在するも尙意に介せざるが如き傾向各地至る處に散見するを以て、之を證するに足る。而して當廳下の如きは臺灣唯一の黃麻會社所在地として將た又米產地として何れも黃麻に淺からざる關係を有するの地なるを以て、優良品種の普及を圖るは勿論、進んで栽培方法の改良を行ひ尙從來の製造方法を改めて浸水法を奬勵し、卒先以て他廳下に模範を示し臺灣黃麻改良の先驅者たるの要あるは呶々を要せざる所なり。

三、輪栽法　地方により或は土地灌漑の便否、肥瘠、栽培作物の種類及地方的習慣等により每年二年三年輪栽等の差異あり卽ち左の如し。

（一）武西堡

畑地　黃麻〈大根其他蔬菜類〉黃麻

田地　黃麻—甘藷—第一期水稻—第二期水稻〈大根豌豆〉黃麻

田地　黃麻—甘藷—黃麻—甘藷—第一、二期水稻—第一、二期水稻—黃麻

（二）東螺東堡

黃麻—甘藷—甘蔗（二箇年）—黃麻

黃麻—甘藷—黃麻—甘藷—黃麻—豆類—黃麻

黃麻—豆類—黃麻—蔬菜類—黃麻—甘藷—黃麻

黃麻—甘藷—黃麻—豆類—黃麻—蔬菜類—黃麻

黄麻―第二期水稻―蔬菜類―黄麻

四、整地　田畑土質の如何前作物の種類及地方により多少の差異あるも犂耕三四回、刈耙及手耙二三回、石輪四回位を以て耕起せる土塊を破碎し、地面を均一ならしむ、之れ各地方に普通行はるゝ整地方法なりとす、之れが順序を示せば次の如し。

第一回　犂耕＜刈耙―石輪／手耙―刈耙

第二回　犂耕＜刈耙―石輪／石輪―手耙―石輪

第三回　犂耕＜刈耙―手耙―石輪／石輪―手耙―石輪

第四回　犂耕―手耙―石輪

以上の方法を以て整地するに際し土地若し排水不良なる時は其の程度により二三間乃至五六間每に小溝を設け排水に便せしむ。

五、肥料　普通土糞大豆粕及人糞尿等にして稀に調合肥料及過燐酸石灰の如き金肥を施用するものあるも其數僅少なり。而して甲當施肥用量は地方により異なること次の如し。

		土糞（斤）	人糞尿（斤）	大豆粕（枚）	調合肥料（俵）
員林支廳下	(一)	二五,000	二,000	三	―
	(二)	二〇,000	四,000	四〇	―
	(一)	四〇,000	―	―	―
	(二)	四〇,000	―	二〇	―

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

北斗支廳下				
(三)	自二〇,〇〇〇 至二五,〇〇〇	—	自一〇 至三	—
(四)	二〇,〇〇〇	—	—	—

員林支廳下に於ける施肥方法は播種の際種子の上より土糞全量を覆ひ發芽後一箇月位（草丈四五寸）に至れば第一回追肥として人糞尿を稀釋し半量を施し、後五六十日を經て第二回追肥として殘り半量を施用す。而して大豆粕は草丈一尺五、六寸に生長せる時全量を施用するものとす。北斗支廳下にありては土糞及調合肥料半量を播種の際種子上より覆ふこと前者と同一にして殘り半量及大豆粕は培土の際施用す。

其他地方により落花生、胡麻、大菜油粕及過燐酸石灰等を元肥及追肥として施用することあり。

六、播種

各地に於ける播種期甲當播種量畦幅及株間を示せば次の如し。

	員林支廳下	北斗支廳下	鹿港支廳下	二林支廳下
播種期	(一)清明前後 (二)清明前十日 同後二十日	清明前後十日	四月上中旬	三月中旬
播種量	(一)五升 (二)三升	(一)一斗 (二)四五升	五升—七升	一斗五升
畦幅	十五尺の大畦上に一尺五六寸にす	畑一尺二寸—一尺五寸 田十五六尺の大畦上に一尺五寸	一尺二三寸	一尺五六寸
株間	間引きて五六寸	間引きて五六寸	間引きて四五寸	間引きて四五寸

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

備考　播種期は地方により多少の差異あるも各廳下共清明（四月六日）前後二十日以内に播種する舊慣とす。播種量は同一地方として甚しき差あるを以て疑はしきも調査のまゝ記載せり。
播種法は各地共條播にして員林支廳下にては嘉義西堡と同しく竹管仔或は手にて播種し土糞を覆ひ其上を犁仔にて覆土す、其他の地方は殆んど手にて播種し土糞を覆ひ尚少しく覆土するを普通とす。各地共播種後四五日を經て發芽するものなり。

七、管理　播種後に於ける管理は各地共普通間引除草中耕及灌漑なりとす。其回數は地方により差異あるも間引一二回（第一回草丈四五寸の時、第二回草丈一尺内外の時）除草中耕二三回（發芽後草丈一尺内外の時）、降雨に際會せば地面硬結し生育を阻害するを以て耙仔にて其都度除草を兼ね中耕を行ふ地方あり。培土一回（草丈二尺乃至三尺位に生長せる時）灌漑は水利の便なる圃地にして旱魃の憂ある時に限り之を行ふ。

八、病蟲害　各地共病蟲害の被害少なく唯僅かに立枯病の發生すると害蟲として蛾蟲及「タイワンオホコホロギ」の被害あるも害少なし。而して「タイワンオホコホロギ」の驅除法は灌漑を以てし又之れが豫防法として輪作を行ふ時は被害大いに減少すと稱せり。

九、收穫及收量　收穫期の早晩は收量の多少製造勞力に大なる關係を及ぼすものなり。卽ち收穫早きに失する時は製造容易なるも收量少なく之に反し晩きに失する時は收量多きも纖維硬化し且つ製造頗る困難となる。故に草丈十分生長し開花結實し莢指頭大に膨大せる時期卽ち播種後百日乃至百二十日内外を以て收穫の適期とす。
收穫期に達せるものは畑地にありては主として手にて根より引き拔き、田地にありては鍬、犂又は芎蕉鏨仔（芎蕉苗を母木より分根する際用ふる鏨狀のもの）を以て引き拔き、生葉を除き（除かざる地方あり）一定の場所に運搬して製造に供す次に收穫期及甲當收量を示さん。

支廳名	收穫期		數量			百斤價額		
			上畑(田) 斤	中畑(田) 斤	下畑(田) 斤	上品	中品	下品
員林	八月中下旬	田地 畑地	二,五〇〇 二,四〇〇	二,二〇〇 二,四〇〇 二,〇〇〇	一,五〇〇 一,八〇〇 一,四〇〇 一,五〇〇	六,〇〇〇	五,七〇〇	五,四〇〇
北斗	八月上中旬	田 畑	三,七〇〇 三,八〇〇 三,五〇〇 三,六〇〇	三,一〇〇 三,〇〇〇	二,〇〇〇 二,〇〇〇	六,〇〇〇	五,七〇〇	五,四〇〇
二林	八月		一,二〇〇	一,二〇〇	九〇〇	六,〇〇〇	五,七〇〇	五,四〇〇
鹿港	八月中下旬		二,五〇〇	一,六〇〇	一,四〇〇	六,〇〇〇	五,七〇〇	五,四〇〇

備考　前表纖維收量は幼麻にして百斤價格は臺灣製麻株式會社の購買價格を示せるものなり。

一〇、採種　廳下に於ける採種法は之を三種に區別するを得、卽ち第一法黃麻收穫の際跡作々業の防害とならざる個處を殘し置き開花結實後採種する方法、第二法は分枝少なきものゝみを選び莖上部二尺內外より切斷し之を水田畦畔に接し水中に挿植し置き活着後開花結實するに至りて採種す。以上二法は嘉義廳嘉義西堡地方に行はるゝ方法と同一なりと雖第三法は他地方に多く行はれざる方法にて移植採種法と大體に於て同一なるも唯切斷移植後根の活着するを待ち之を引き拔きて豫め施肥整地し置きたる畑地に移植し、採種するの點を異にするのみ。而して第一法による採種時期は九月下旬乃至十月上旬に至り莢の外部稍黃褐色を呈し子實稍變色するに至れば分枝せる部分より切り取り之を地上或は屋上に擴げ十分乾燥し、叩きて種子となし嘉義地方と同一方法により風通良き場所に貯藏す。第二法は嘉義廳下と異なり每年連續採種を行ふものに非らずして三

四年目に一回位行ふを普通とせり。

第四節　臺南廳下に於ける黄麻栽培法

一、地形及土質　大目降支廳管內の一部の如き山地畑に栽培するものなきにあらざるも其他の地方に於ては平地畑及田地に栽培するを普通とせり。而して栽培地の土質は畑地にありては壤土及砂質壤土に、田地にありては粘質壤土を適土となし砂土及粘土は黄麻の生育を阻害するのみならず初成皮層薄く且つ莖稈部細長となる缺點あるを以て斯る土壤に栽培するもの少なし。

二、品種　廳下栽培者の多くは青皮種紅皮種及紫皮種卽ち深紅皮種の三品種にして、就中青皮種收量多きを以て栽培面積最も廣く、且つ本種は水濕に耐ふる力强きを以て該種より製出せるものは多く水中に使用する器具機械類の繩網用に、又紅皮種は比較的乾燥に耐ふる點より該纖維は陸上に使用する諸繩網用に、紫皮種は專ら麻布用に供せらる。然れども仔細に之を調査せば廳下に分布せる品種は之を四品種に區別せらる。卽ち廳下に最も廣く栽培せらる丶青皮種は青皮種に非ずして葉柄及蒴の色により淡紅皮種なるを確かめたり。蓋し本品種の莖色深紅皮種の如く特色ある深紅色を呈せざるのみならず麻畑の中央部日光の透射不充分なる分部は色薄く恰も青皮種の如き觀あるを以て誤認せる結果青皮種と呼稱するに至れるものなるが如し。紅皮種は卽ち紅皮種にして作付面積前者に次ぎ紫皮種(深紅皮種)は他品種中に混在するも本品種のみ殊に栽培するもの少なし。青皮種は長興下里太子廟庄に栽培せられ該品種は之等を嘉義廳下より種子を取寄せ栽培せしも初成皮層薄く收量少なきを以て該地方のみならず他地方に於ても現今之を栽培するもの甚だ稀なり。

三、輪栽法　田地及畑地により多少之を異にするも連作及三四年輪栽との別あり。

連作の場合

田地　黄麻―第二期水稲（烏壳晩／白尖仔禾）―黄麻

畑地　黄麻―甘藷―黄麻

隔年輪栽の場合

	一年目	二年目	三年目
田地	黄麻―第二期水稲（白脚晩／大禾）	―甘藷―水稲（中間作圓粒、烏壳、清油）	―豌豆―黄麻

一年目	二年目	三年目
黄麻―第二期水稲（烏壳晩／白尖仔禾）	―甘藷―田菁―第二期水稲（烏壳晩／白尖仔禾）	―黄麻

三年輪栽の場合

	一年目	二年目	三年目	四年目
畑地	黄麻―甘藷	―甘蔗―	（米豆／綠豆）―陸稲中間作矮脚青	―甘藷―黄麻

四年輪栽の場合

	一年目	二年目	三年目	四年目	五年目	六年目
畑地	黄麻―甘藷	―甘蔗―	（米豆／綠豆）―陸稲中間作矮脚青	―甘蔗―	（米豆／綠豆）―陸稲中間作矮脚青	―甘藷―黄麻

四、整地　田畑及前作物の種類により多少差異あるも水田にありては水稲收穫跡地を犂耕三四回畑地にして豌豆跡地は二三回犂耕を行ひ、刈耙手耙を以て交互に土塊を破碎し且つ地表を均一ならしむ。今水田稲作收穫跡地の整地法を述ぶれば次の如し。

第二期水稲收穫後直に第一回犂耕を行ひ後十日間を經て第二回犂耕をなし其儘放置し十分風化作用を行はしめ、三月上旬に至り第三回犂耕と共に刈耙及手耙を以て土塊を破碎す。而して第四回

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

犂耕は播種前に行ふものにして第三回同様刈耙及手耙にて十分土塊を碎き地面を均一にして整地を終るものとす。

五、肥料　普通施用する肥料は元肥として土糞甲當四五萬斤を最後の犂耕前（四回犂耕する場合には第二回犂耕の際施用することあり）圃地全面に撒布して犂き込むものとす。追肥としては主に人糞尿甲當二千斤乃至六千斤位（長興下里太子廟區長黃澤は甲當二萬斤を施用しつゝあり）を培土の際施用す。又牛車を有せざるものは土糞及人糞尿の運搬費を節する目的を以て調合肥料甲當三四百斤を施用するもあり。其他單に元肥のみを施し追肥を施さゞる場合及追肥のみ施すもの等種々ありて一定せざるが如し。

六、播種　播種期甲當播種量畦幅及株間を示せば次の如し。

	長興下里	歸仁北里
播種期	四月上旬（清明前）	田 三月中下旬 畑 四月上旬
播種量	七八升	田畑共 一斗
畦幅	一尺五寸乃至二尺	一尺五寸
株間	千鳥掛に間引きて三四寸さす	間引きて五六寸さす

播種方法は凡て條播にして犂を以て深さ四五寸位の作條を切り手にて播種す。歸仁北里地方にては播種前種子を一夜間浸水し細砂を混し播種したる後熊手にて作條中を搔き混ぜつゝ足にて覆土するか或は土塊を糞箕に盛り兩把手に繩を附し作條を引きて覆土を行ふもあり。又長興下里太子廟附近にては種子を一夜間浸水し之を小麥粉袋に入れ倘一夜間其儘放置し萌芽せしめたる後播種し足にて覆土後倘地面を均一ならしめんがため葉付の林投或は竹にて地面の搔き均らしを行ふ。斯くして四五日を經過せば發芽するものなり。

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

七、管理　發芽後降雨ある時は耙仔にて中耕を行ふ。間引は地方により一二回にして卽ち一回行ふ地方は草丈三寸乃至五寸の時間引きて四寸乃至六寸となす。又二回行ふ地方にては草丈二三寸の際千鳥掛けに間引きて三寸位となし後一尺五六寸に生長せる時再び間引きて株間距離を六寸位となす。除草中耕は耙仔或は鍬にて二三回行ひ培土は犁(犁壁を除きて)或は鍬にて五月頃草丈二三尺に達せる頃一回之を行ふ。其他灌漑は降雨の多少及灌漑水の便否如何によりて適宜之を行ふものとす。

八、病蟲害　病蟲害中白絹病及立枯病に侵されたるもの一二あるを實見したるのみにして被害甚だ少なく殆んど生育及收量等に何等の影響を及ぼさゞるが如し。又蟲害の如きも砂質地にありては發芽當時僅かに「タイワンオホコホロギ」の被害あるのみなり。

九、收穫及收量　收穫の適期は他廳下と同じく草丈十分生長し(收穫當時草丈普通八九尺とす)莖上部に至り枝椏分枝し開花結實し初めたる時期とす。

收穫期に達するも降雨なく土地乾固せる場合は犂にて畦側を犁き分けつゝ手にて引き拔き收穫を行ふと雖、若し降雨ある時は土地濕潤となるを以て直に手にて引き拔き竹刀にて生葉を除去し製造所に運搬し製造するを普通とす。其他長興下里及歸仁北里地方中灌漑の便ある土地にありては收穫前十分水を畑中に引き入れ浸潤せしめたる後足先にて根際を踏み分け一二本づゝ引き拔き根部に附着せる土を洗ひ落し鎌にて生葉着生の多き先端を切り落し(之れ跡作の肥料となす目的なり)適宜の束に結束し製造所に運び製造するもあり。左に收穫期及甲當粗麻收量を示さん。

收穫期	上	中	下

長興下里	八月下旬		六·〇〇〇斤	四·〇〇〇斤	二·〇〇〇斤
歸仁北里	田七月中下旬	田	五·〇〇〇	四·〇〇〇	三·〇〇〇
	畑八月上旬	畑	四·〇〇〇	三·〇〇〇	二·〇〇〇

備考　前表地方は主として粗麻のみを製造す

販賣法は産地にて仲買人に直接賣渡すものと臺南及安平地方へ牛車にて搬出販賣するものとの二種あり。而して製造者と仲買人との間に行はるゝ舊慣重量(千斤建)は搬出距離及價格に關係すること次の如し。

舊慣纖維千斤建名稱	重量	販賣地	價格 上	價格 中	價格 下
加一	一二〇〇斤	安平	五二·〇〇〇円	五〇·〇〇〇円	四八·〇〇〇円
加一、五	一二五〇	臺南	五八·〇〇〇	五四·〇〇〇	四五·〇〇〇
加二、五	一二四〇	地元	五〇·〇〇〇	四五·〇〇〇	四〇·〇〇〇
加二、六	一二六〇	地元	五二·〇〇〇	五〇·〇〇〇	四八·〇〇〇

前表の如く搬出距離によりて千斤建方を異にするのみならず尙價格にも關係を及ぼすは之れ距離の遠近により運賃に關係あるを以なり。

(一〇)、採種　採種法は嘉義地方と異なり唯一種にして收穫の際黄麻畑の外圍にして跡作業の障害とならざる部分を限り所要數丈け存置し、九月下旬に至り枝梗分枝し種子成熟するに至れば分枝せる部分を鎌にて刈取り之れを軒下に吊し置き十分乾燥せしめ、十二月乃至翌年三月頃晴天の日を

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

選び莢を叩きて種子を調製し、竹筒中に貯藏し、播種前風選を行ひ下種す。歸仁北里地方にても略ぼ之れと同一にして收穫の際殘し置きたるもの收穫後二十四五日乃至一箇月を經て莢の色稍黃褐色を呈するに至れば先端枝梢部を鎌にて刈り取り、(子實十分成熟せば發芽步合劣ると稱し乾燥中に追熟を行はしむ)之れを屋上に擴げ晴雨の別なく連日連夜其のまゝ放置し、十二月頃に至り(甚だしきは播種前迄放置することあり)叩きて種子を調製し、竹筒中に貯藏するを普通とす。

第五節　南投廳下に於ける黃麻栽培法

一、地形及土質　廳下に於ける主產地は北投堡沙連堡及南投堡にして就中北投堡最も多く、良質黃麻を產出す。何れも畑地に栽培するもの少なく灌漑の不便なる看天田を利用栽培するもの多し。土質は普通粘質壤土なるも直轄林仔庄及草鞋墩支廳下匏仔寮庄地方にては往々壤土に栽培し成績優良なるものあるを見たり。

二、品種　一般に栽培する品種は紅皮種及靑皮種にして紅皮種は收量多きも纖維粗剛なるを以て之れを忌み靑皮種を栽培するもの多し。之れ靑皮種は收量前者に劣るも纖維品質優良なるを以て匏仔寮庄地方の如き粗麻布(現今粗麻布製造者減少せるも往時は粗麻布產地として有名なりき)製織用には缺くべからざる品種として推奬せられ、且施肥用量少なきも尙相當收量を舉げ得るの利益あるを以て本品種の栽培者多し。其他臙脂黃麻(深紅皮種)を栽培するものあるも甚だ僅少なり。前述林仔庄には臺灣製麻株式會社購買員駐在し黃麻作奬勵として二三年前オリトリアス(長莢靑種及長莢斑縞種)種子を配布したる結果該種子を栽培せる者二三あるも皆住宅附近畑地に小面積宛栽培し、且つ分枝すること多く細莖なるにより收量在來種に比し劣るを以て栽培を希望するもの少なしと云ふ(當場試驗成績に合致せり)。

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

三、輪栽法　土地の肥瘠により連作二年乃至四年輪栽を行ふ即ち次の如し。

(イ)黄麻—第二期水稲(黄葉仔)—{休閑 / 豌豆}—黄麻

(ロ)黄麻—{第二期水稲(低脚烏殼)—{大根及蔬菜類}—黄麻 / 甘藷————甘蔗————黄麻}—{或は大根及蔬菜収穫後第一、二期水稲を二ヶ年乃至四ヶ年間栽培するものあり}

(ハ)黄麻—甘藷—第一、二期水稲(二年乃至四年間第一、二期水稲を栽培す)—黄麻

(ニ)黄黄—甘藷—第一、二期水稲—煙草—第一、二期水稲(二年乃至四年間栽培す)—黄麻

四、整地　前作物の種類に依り多少之れを異にす。即ち豌豆及蔬菜類の栽培跡地は犂耕及耙耕一二回に過ぎずと雖水稲跡地にありては水稲収穫後直に犂耕を行ひ其のまゝ放置し降雨を待つて刈耙にて土塊を砕きたる後尚一二回犂耕及耙耕を行ひ十分土塊を破砕し手耙を以て地面を均一ならしむ。

五、肥料　肥料の主なるものは土糞(主に牛糞と塵埃及土とを混和せるもの)人糞尿及大豆粕等にして、稀に落花生油粕を施用するものあり。以上數種肥料甲當施用量の多寡は土地の肥瘠、地方或は栽培者により各差異あること次の如し。

(イ)土糞三萬斤乃至四萬斤を單用す。

(ロ)土糞甲當一萬斤乃至一萬二千斤大豆粕十五枚乃至二十枚。

(ハ)土糞三萬斤　人糞尿一萬斤。

(ニ)土糞一萬斤　落花生油粕(一枚五斤位)三百枚。

六、播種　播種期甲當播種量畦幅株間を示せば次の如し。

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

	林仔庄	豼仔寮
播種期	三月下旬乃至四月上旬（清明前十日より清明迄）	四月上旬（清明四五日前後）
播種量	七升五合	七升五合
畦幅	一尺五寸	一尺五六寸
株間	間引きて四五寸	間引きて四五寸

播種方法は犁或は鍬にて作條を切り播種したる後土糞を覆ひ縦に刈耙を掛けつゝ覆土するか或は足にて覆土を行ふ。播種後四五日にて發芽す。

七、管理　林仔庄附近にては發芽後十日乃至十五日を經て第一回間引を行ひ後十四五日を經て株間五六寸に第二回間引を行ふ。除草中耕は前後三回にして第一第二回は間引の際同時に鍬にて行ひ第三回は培土の際卽ち草丈二尺內外に生長せる頃培土と同時に行ふ。而して培土の際には追肥を施すを普通とす。其他灌漑は水利の便ある地方を除き多く之れを行ふものなし。豼仔寮附近にありては發芽後草丈五六寸より一尺內外迄の間に二三回間引を行ひ、株間を五六寸となす。除草は中耕を兼ね間引と同時に行ふ。培土は前後二回にして第一回は草丈一尺內外の時第二回は草丈二尺內外の時行ふものとす。

八、病蟲害　立枯病に侵さるゝもの少數宛各地に散見するも被害程度大ならず、蟲害としては發芽當時根切蟲の被害あるも收量に影響を及ぼすことなしと云ふ。

九、收穫及收量　草丈十分生長したる後葉及皮部漸く厚さを增し莖色稍淡紅色となり且開花結實の初期を以て收穫の適期とす。此期に達せば灌水し得る地にありては必ず收穫前灌水後收穫を行ふ。其法林仔庄附近にありては幼麻を製するものなきにあらざるも主として粗麻のみを製造する

を以て圃地に生育せるまゝ地上約一尺五六寸の處より黄麻挾仔に挫折し木質部を除き同時に生葉をも除去したる後黄麻鏨（嘉義西堡地方のものに比し小形にして多少形狀を異にせり）にて嘉義西堡地方と同一方法にて抜き取り製造所に運びて製造す。又匏仔寮附近にては粗麻製造をなすもの甚だ少なく幼麻製造をなすもの多し。之れ粗麻は主に製麻會社にのみ需要せられ價格に變動を來たす恐れあれば需要範圍廣き幼麻を製するを有利となす以所なり。而して其の收穫法は幼麻製造地なる嘉義西堡地方と殆んど同一にして唯嘉義西堡と異なるは抜き取り及剝皮を容易ならしむるため、收穫前に至り灌水する差あるのみ、次に收穫期及甲當收量を示さん。

	收穫期		收量 上	收量 中	收量 下	百斤の價格 上	百斤の價格 中	百斤の價格 下
林仔庄	七月下旬乃至八月上旬（立秋前十日）	粗麻	五,〇〇〇斤	四,〇〇〇斤	二,〇〇〇斤	三・七〇〇円	自三・〇〇〇円 至四・〇〇〇	三・〇〇〇円
匏仔寮	八月下旬（立秋後）	粗麻	自六,〇〇〇 至七,〇〇〇	自五,〇〇〇 至六,〇〇〇	自三,〇〇〇 至四,〇〇〇	三・九〇〇	三・五〇〇	三・〇〇〇
		幼麻	自五,〇〇〇 至六,〇〇〇	自四,〇〇〇 至五,〇〇〇	自二,〇〇〇 至三,〇〇〇	五・六〇〇	五・五〇〇	五・〇〇〇

備考　林仔庄附近に於て製麻會社は黄麻栽培獎勵として粗麻纖維七尺以上のものを一等品となし、百斤に付二圓の賞金を與へ一等品以下は優劣の程度により之を二等品三等品に區別せり。
粗麻價格は臺灣製麻株式會社の購買價格を示せるものとす。

〇、採種　林仔庄及匏仔寮附近に行はるゝ採種法に二法あり甲法は嘉義西堡地方に行はるゝ方法と略同一にして收穫の際草丈長く分枝少なきもののみを選び、莖上部を二尺內外に切斷し、之れを水田及埤圳濕地等に挿入し、十四五日間放置せば新根を生じ活着するを以て別に整地施肥せる

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

苗床に移植し、豚糞其他を混し腐熟せるものを水肥となし肥培すること四五十日に及べば開花結實し稍黄褐色となりたる時拔き取り屋上にて十分乾燥し後臼にて輕く搗きつゝ採種す。調製せる種子は竹筒及甕類に入れ濕氣を蒙らざる樣貯藏す。乙法は各地方に行はるゝ方法にして收穫の際一部を殘し置き九月下旬に至り莖上部結實せる部分のみを切斷し前法同樣採種貯藏す。

第六節　印度に於ける黄麻栽培法

一、地形及土質　印度に於ける黄麻栽培地は高原乾燥地を避け平坦なる低地にして濕潤なる土地に多く栽培せらる。而して土質は長莢種(Corchorus olitorius.)は球莢種(Corchorus capsularis.)に比し割合に瘠薄なる高燥地にも栽培せらるゝと雖、球莢種は之れに反し米、豆、煙草と輪栽し得る住宅附近の肥沃なる低地を良とす。

如斯種類により或は栽培地方により多少差異あるも高溫且つ空氣濕潤なる地方にして生育期中降雨多き沖積土を以て最良とし、粘質壤土及壤土等之れに次ぎ赭土礫土及砂土等は生育不良なり。之れ粘質地は纖維強靱なるも砂土礫土及乾燥地は纖維粗剛となる缺點あればなり。

二、品種　印度に栽培せらるゝ黄麻は長莢種及球莢種の二種類なりとす。

三、輪栽　連作を行ふ時は枝椏分枝するもの漸次增加するを以て輪栽は黄麻栽培に最も必要なる條件なりとす。之れがため收量の減退するを防ぐを得べく又肥料を經濟的に有效ならしむるの利益あり。故に印度にては芥菜類、稻、荳菽類及煙草等と輪栽す。

四、整地　犂耕及耙耕回數は土質の如何に依りて差異あり。卽ち粘質地は壤土及砂質地に比し犂耕及耙耕回數多からしむ。否らざれば土塊の粉碎十分ならざるを以て發芽の不齊を來たし收量に大なる影響を及ぼすものなり。之れを以て播種前普通四回乃至六回より多きは十二回耕起し、最後

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

に雜草根を「ハロー」にて掻き集め之れを燒棄し（其のまゝ肥料に供用す）以て播種の準備を調ふ。

五、肥料　印度に於ける普通黃麻施用肥料は牛糞、草木灰、塵埃油粕類なりと雖、各地農事試驗場に於て萞麻油粕、骨粉、硝石、過燐酸石灰、カイニツト、硫酸アンモニヤ等各種肥料施用品種に劣るを以て用途及目的より之れを粗製纖維用及精製纖維用の二種に區別せば前二品種を幼麻製造用として他三品種を精製纖維製造用として栽培するを有利とする以所なり。試驗を施行したる結果牛糞一エーカーに對し百五十マウンド（一マウンド八二、三封度）卽ち段當四百八十四貫二百匁を施用せるものは牛糞中に含有せらるゝ同量の窒素を施せるものよりも尙優良なる成績を示せり。之れを以て印度にては牛糞を以て黃麻に對する最適肥料となし印度各地に賞用せらる。

六、播種　印度に於ける播種量畦幅株間及播種方法を示せば次の如し。

播種期　二月より六月の間に播種すと雖も普通三四月とす。

播種量　薄播にする時は纖維收量多きも纖維粗大となるを以て一エーカー六乃至八封度（段當七十六匁乃至二百三十五匁）或は一ヘクター五乃至十基瓦（段當百三十二匁乃至二百六十四匁）を適量とす。之れを當場產種子一升重量平均三百二十匁とし換算せば段當播種量約四合乃至八合（百三十二匁乃至二百六十四匁とせば）にして甲當約三升九合乃至七升八合となる割なり。

畦幅　九吋（七寸五分餘）。

株間　四吋乃至六吋（三寸四分乃至五寸）を普通とするも八吋乃至十吋（六寸七分乃至八寸四分）となすもあり。

播種法は晴天の日を選び播種に便せんがため等量の砂を混して播下し輕く覆土するか或は耙耮にて掻き混ぜ後「ローラー」にて壓鎭するもあり。又地方によりては撒播法により播種するもあり。播種後土地適當なる濕氣を有する時は二三日乃至四五日にて發芽す。

七、管理　播種後約十五日を經て除草及間引を行ふ爾後三四日毎に二三回除草中耕を兼ね間引を行ふ其他一般に粗放的栽培なるを以て甚だしきは播種後收穫時期に達する迄手入管理することなく其儘放置するものあり。

八、病蟲害　一般に病蟲害の被害少なく唯僅かに黄麻苗枯病(Rhizoctonia Solani Kuehn.)の外病蟲害のため生育及收量に影響を及ぼすが如きことなし。

九、收穫及收量　黄麻は播種後三箇月にして成熟すと稱し六月下旬より十月上旬に收穫するものありと雖八月中旬より九月下旬卽ち播種後四五箇月を經て收穫するを普通とせり。而して收穫期は開花前を以て最適期とす。開花結實後に至り收穫せるものは纖維收量多きも光澤なく、纖維粗大となり反つて強力を失ひ品位惡變するを以て價格を廉ならしむるの不利あり、收穫適期に達する時は大鎌或は機械にて地上四寸の處より刈り取り五六十莖を緩く結束し、其儘地上に放置し落葉せしめたる後浸水するものにして、本法により落葉後浸水する時は纖維の變色を豫防し得るものなりとて一部地方の如きは雜草又は土を以て之れを覆ひ三四日後葉を振ひ落し浸水するもあり。

收量は勿論浸水法に依る精製纖維收量にして多きは一エーカー當十二マウンド（反當二十九貫四十匁甲當二千三百六十六斤）より多きは三十六マウンド（反當八十七貫百四十四匁甲當七千百二斤）なり。而して少なきは六マウンド（反當十四貫五百二十匁甲當千百八十三斤）乃至九マウンド（反當二十一貫七百八十匁甲當千七百七十六斤）にして平均約十四マウンド（反當三十一貫八百八

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

十八匁甲當二千七百六十二斤)なり。以上の成績にて一エーカーの純益金二十乃至三十留比(纖維一マウンド二留比)なり。之れを我が反當に換算せば三圓十九錢乃至四圓七十八錢八厘にして甲當三十一圓十九錢八厘乃至四十六圓八十二錢七厘となる割合なり。

孟買農務局の調査に係る管內生産黃麻一エーカー當收量を示せば次の如し。

年號	一エーカー當	生莖に對する纖維步合	反當	甲當
一九〇六	封度 六〇九	二・四五 %	貫 一七・九一六	一・四六〇 斤
一九〇七	八一七	四・七二	二四・〇二四	一・九五八

第六章　臺灣主要産地に於ける黃麻纖維製造方法

黃麻纖維製造は之を粗製纖維製造法及精製纖維製造法の二種に區別す。而して粗製纖維製造法は更に之を分ちて幼麻及粗麻製造法の二種に、精製纖維製造法は之を生莖浸水法及粗製纖維(粗麻及幼麻)浸水法の二種に區別するを得べし。由來本島農家に於ける黃麻纖維の用途は繩綱類結縛用及粗麻布原料に限られあるを以て舊慣上幼麻製造を主眼とせり。然るに近來(製麻會社設立以後)嘉義廳南投及臺南廳下に粗麻製造を行ふものあり。之粗麻は多く製麻會社に於て需要すると幼麻に比し製造法簡單にして製造費を節減し得る關係上之が製造を行ふに至れり。精製纖維製造法に至りては農家之が製法を知るもの各地共絕無なりとす。勿論本法に依り製出せられたる纖維はヅック、ガンニー袋製造用原料に供用せらる、外本島に於ては他に需要の途なく、主として製麻會社に於てのみに要需せらる、結果幼麻に比し販路比較的狹少なる嫌なき能はずと雖、生莖浸水法に依る精製纖維製

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

造は粗麻製造に比し遙に有利にして且製造費をも節減し得るのみならず、纖維價格に於ても三倍乃至五倍の高直を示せり。如斯を以て製麻會社を中心とし粗麻製造を行ふ地方又は會社と契約し得る地方及浸水法を行ひ得る便利の地に於て本法を實行せしむるは農家經濟上看過すべからざる問題なりとす。故に之等の地方に本法を奬勵周知せしむるにより本島黃麻作改良上至大の影響を及ぼすものなるべし。以下當場に於て數年間繼續實施せる製造方法及各地主要產地に於ける幼麻及粗麻製造方法を述べ兩者製造上に於ける利害得失を比較對照し以て當業者の參考に資せんとす。

第一節　當場に於ける黃麻纖維製造法

一、幼麻製造法

幼麻は本島に於ける土名にして生莖を木質部及皮部(初生皮層(表皮、木栓質、綠皮)後生皮層(靱皮、篩管)及形成層を總稱する俗稱とす)に分離し、皮部表皮を剝ぎ取り靱皮部を乾燥せるものを云ふ。而して粗麻とは皮部の表皮を剝皮することなく皮部のまゝ乾燥せるものを云ふ。左に幼麻製造方法を記述せん。

畑地より引き拔き根に附著せる土を打ち落し且竹刀を以て生葉を除去し(或は除去することなく)製造所(樹陰地住宅附近或は圃場の一隅等便利の地を選定するものにして一定せず)に運搬し來れる原料を次の四種分業的方法により製造す。

(イ)木質部の分離　全莖の三分の二以上の皮部と木質部とに分離する方法にして男二人にて之を行ふ。卽ち甲者は生莖一二本(大莖のものは一本細莖のものは二本)を取り上げ根部を把持し、乙者は木製或は竹製の麻箸(口徑七八分長さ一尺五六寸にして二本を用ふ地方により麻挾とも云ふ)にて挾み最初一二回生葉除去(收穫の際生葉を除去せざる場合)及皮部と木質部との分離を

容易ならしむる目的を以て輕く壓しつゝ二人互に牽引す。此の場合甲者は數尺間退くものにして最後に同一要領にて强引せば木質部は麻箸にて壓迫せらるゝため容易に挫折し、乙者の牽引先端部に及ぶに從ひ皮部と木質部とに分離すべし。根部を把持せる甲者は之を身邊に堆積し次法に移す。

（ロ）基部木質基部木質部分離　本項處理法は多く女子之に從事するものにして前項により分離せられたる殘部の木質部（莖の基部にして全莖の三分の一内外）を手にて剝き取りたる後基部七八寸の處を内部に折り曲げ表皮を剝き取るべし。之れ基部の表皮他部に比し厚きを以て乾燥後製繩に際し接續に便利なる關係上次項作業前之を行ふ。斯く取扱はれたるものは根梢部を混同することなく身邊に堆積し次法に移す。

（ハ）剝皮　本項處理法は男女何れを問はず凡て二人にて黄麻刀を以て行ふ。卽ち前項により木質部と皮部とに分離せる生皮部の表皮を剝離する方法にして、表皮の剝離を容易ならしむるため暫時淸水中に浸漬したる後甲者は生皮部を身邊便宜の處に置き之より一本宛を取り上げ、基部一尺内外の表皮を豫て結縛し置ける黄麻刀にて剝き去り、再び之を黄麻刀に挾めば反對側にある乙者は剝皮せる部分を握り急引せば表面は黄麻刀にて除去せられ、生幼麻となる之を身邊適宜の位置に重ね置き次法に移す。

（ニ）乾燥及結束　前項により剝皮製造せる生幼麻を乾燥結束する方法にして乾燥場は別に設置することなく之を地上、竹或は鐵線等に掛け乾燥すること晴天一二日間とす。之幼麻なり。而して十分乾燥せる幼麻は適宜結束し販賣用に供するか或は其儘貯藏し置き自家用に供するものとす。以上の方法は地方により多少差異あるも多く北部地方に行はるゝ方法にして該纖維は主と

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

して製繩及粗麻布用として消費せらる。

二、精製纖維製造法

本法は幼麻及粗麻を浸水製造する幼、粗麻再製法とも稱すべきもの及生莖浸水法との二種に區別することと前述の如し。前者は目下臺灣製麻株式會社に於て製造しつゝある方法にして、當場にありては專ら生莖浸水法を採用せり。卽ち收穫せる黃麻生莖の生葉を除去するか或は其儘（跡地に肥料を返還する意味に於ては生葉を圃場にて除去するを可とす）にて適宜結束し、莖部二尺內外を水中（溝渠或は池水何れにても可なり）に樹て二三日間浸水放置す。否らざれば全莖浸水の際根梢部の腐熟均一を缺く缺點あるを以て、皮層厚き基部のみを最初浸水する所以なり。斯くして基部稍腐敗を來すに至れば豫て設けある浸水池（池、瀦水を利用するも可なり）中に橫へ池中の底土と直接接觸せざる如くに丸太を置くか、或は其他の設備をなし、束を相疊重（浸水池の深淺により二列三列或は四列となす等加減するを要す）したる後注水し、且各束浮上せざる樣結縛するか或は重石を置き上方莖束よりの水深を一尺內外とし、可成日光を遮斷して腐熟せしむるを良とす。若し水淺く且日光透射する時は維纖灰黑色に惡變し纖維の品位をして劣等ならしむるものなり。浸水日數は氣溫水深及水溫により差異あるものにして腐熟日數早きに過ぐる時は纖維の分離困難なるべく、又晩きに失する時は纖維殊に先端部の強力を著しく減退せしむ。之を以て浸水適度を失せざる樣注意するを肝要とす。卽ち普通黃麻收穫時に於ける氣溫にありては浸水後十日乃至十五日間內外に至り一二本を引き出し、水中に入れ木質部の上より手にて腐敗物を捥き落し、見るに皮部組織十分腐熟し纖維のみとなり木質部と容易に分離し得るに至れば浸水の適度を示せるものなり。故に此期に達せば浸水池より束を順次取り上げ（殘部は日光に直射せざる樣注意せざれば直に灰黑色に變色するを以てな

り）清水或は流水中にて腐敗せる部分を流しつゝ木質部と纖維とを分離し、直に晴天一二日間乾燥すべし。之精製纖維なり。如斯にして製出し得たる纖維は叙上記述せるが如くガンニー袋及ヅック製造原料に供用せらる、生莖浸水法による纖維收量成績は第五章第一節(九)を參照すべし。若し纖維灰黑色にして漂白の必要ある時は「クロールカルキ」(工業用)溶液中(濃度は纖維灰黑色の程度により增減するを要す)にて乾燥前處理するを要す。

第二節　嘉義廳下に於ける黃麻製造法

(一) 嘉義西堡地方

該地方にありては凡て幼麻製造にして黑麻鑿を以て收穫し生葉を除去せる生莖を便宜の場所（主として住宅附近）に運搬し置きて製造す。方法は當場に於ける幼麻製造法と異なり次の三種分業的方法に依り製造す。

(イ)木質部分離　本項作業は悉く婦女子之に從事するものにして、當場に於ける(イ)項に該當するものとす。其方法は腰掛用長椅子に跨り莖頂部の皮部最も薄き枝梗分枝せる直下を手にて折り、木質部を抽出せしめ、最初枝梗部に向け右手にて剝皮し、左手の人指を木質部と皮部の中間に位置せしめ右手にて皮部を握りたる儘引きて莖部に向け剝皮を行ひ、木質部は之を左方に置き皮部は長椅子上に堆積す。此際若し生莖大なる時は皮部を二分し、第一回は半分を剝皮し第二回に全部を剝皮し、次作業に移す。

前法により生ずる木質部は當場に於けるが如く破碎せらるゝことなく、殆んど全莖完全に分離するを得べし。該木質部は製造の多寡を論せず凡て製造に從事せる婦女子の所得にして、之がため勞働賃金として支拂ふことなく木質部を以て代用する舊慣なりとす。之れ木質部は農家の

好燃料たるを以てなり。

(ロ)剝皮　本項は當場に於ける(ハ)項と同一方法により剝皮(表皮)するものにして、多く男子之に從事す。黃麻刀の形狀北部地方と多少異なるも剝皮要領當場に於ける方法と同一なり。

(ハ)乾燥及結束　當場(ニ)項と同一にして直接地上に一莖分宛を排列乾燥すること晴天一二日間にして十分乾燥するに至れば之を適宜結束して販賣及自家用に供す。

(二)　打猫北堡地方

該地方に於ける黃麻製造法は製麻會社にて栽培奬勵をなしつゝある關係上粗麻を主とし、幼麻は自家用に供する分のみ嘉義西堡地方と同一方法により製造するを以て、之を省略し粗麻製造法を左に記述せんとす。

(イ)木質部分離　甘蔗刀にて根際より切り倒し生葉附著のまゝ收穫せる生莖を嘉義西堡と同一方法により皮部と木質部とに分離す。而して木質部は就業者の所得として分與すと雖雇主に於て之を各就業者居宅迄運搬し給與するを異にせり。

(ロ)乾燥及結束　前項により木質部を分離したる皮部は尙幾分生葉を附著しあるも其儘地上にて乾燥すること二三日にして十分乾燥するに至れば葉の附著せる部分を石、煉瓦等に打ち付け、之を除去し、一把十斤內外となし後五把宛を結束し販賣用に供す。

以上粗麻製造法は纖維價格に於て幼麻に比し廉價なるも製造費を節減し得ること大なるを以て單に粗麻製造のみに關し收支關係を計算せば農家の經濟上大なる影響を及ぼすことなきも、收穫法の差異卽ち拔き取り法と株切り法とにより收量上に及ぼす影響を調査するに、株切法は拔き取り法に比し粗麻甲當千斤の損失ありとて該地方栽培者等しく株切法を忌むの傾向あるを認

めたり。

（三）龍蛟潭堡地方

該地方に於ては幼麻製造を主とし粗麻製造者少し。製造法は幼麻にありては嘉義西堡に粗麻製造にありては打猫北堡に準ぜり唯木質部の處分方法は前述二地方と同一分與するも遠隔のものに限り木質部を與ふる外一日五六錢の賃銀を支拂ふの差あり。

第三節　臺中廳下に於ける黄麻製造方

（一）北斗支廳下

該地方は主に幼麻製造にして時に或は請負製造をなさしむることあり。即ち收穫（拔き取り法）のみにて一甲四圓、製造（木質部分離及剝皮）は乾纖維百斤に對し二圓の割とす。左に幼麻製造法を述べん。

（イ）木質部分離　嘉義廳嘉義西堡地方と凡て同一なり。

（ロ）剝皮　男女何れも從事するものにして黄麻刀にて剝皮すること嘉義西堡に同じ。

（ハ）乾燥及結束　地上にて一本宛排列乾燥すること十二日間にして十分乾燥後三四斤位の小束となし、後長さ五尺內外重量四五十斤位の大束となし、三ヶ所を結縛し販賣用に供す。

（二）員林支廳下

北斗支廳下と同じく幼麻製造を主とす。即ち左の如し。

（イ）木質部分離　木質部の分離法は嘉義西堡と同一にして尙基部の表皮七八寸は次項作業前當場と同じく手にて剝皮す。木質部の處分法は他地方と同じく之を給與するものと否らざるものとの二種あり。給與せざる場合は六日間一圓（給食）の賃銀を支拂ふものとす。

（ロ）剝皮　本項亦嘉義西堡と同一にして主として男子のみ就業す。

（ハ）乾燥及結束　地上にて一二日間十分乾燥したる後四五斤位の小束となし更に北斗支廳下と同一方法にて五六十斤の大束に結束し販賣用に供す。

第四節　臺南廳下に於ける黄麻製造法

（一）長興下里地方

臺南廳下は一般に粗麻製造を行ふもの多く該地方に於ても專ら粗麻のみを製造す即ち左の如し。

（イ）木質部分離　木質部の分離は女のみ就業すること嘉義西堡に同じく、方法亦同一なり。而して分離せる皮部は一々內面を上にし長椅子上に堆積して次法に移す、木質部處分は他地方と同じく作業者に給與するものと、賃銀一日十二錢を給し木質部を給與せざるものとの二種あり。

（ロ）乾燥及結束　乾燥法は皮部の表面卽ち表皮部を上にし、地上に一本宛排列し二三日間乾燥す。十分乾燥せば一束三十五斤位の大束となし、四ヶ所を結縛す。此際束の外層のみは粗麻の內面白色平滑なる部分を表はし、以て結束後に於ける外觀を飾り以て販賣用に供す。

（二）歸仁北里

該地方も前記長興下里地方と同じく粗麻製造にして之が製法亦殆んど同一なり。唯木質部の分離に就業せる女子に對する賃銀は全く支拂ふことなく、各自分離せる木質部全部を給與すると、乾燥後の結束は五六十斤位の大束となすの差異あるのみ。

第五節　南投廳下に於ける黄麻製造法

（一）南投堡

林仔庄附近に於ける黄麻製造法は凡て粗麻にして他廳下と稍製法を異にせり卽ち次の如し。

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

（イ）木質部分離　本項は前章同廳下栽培法收穫の部に於て記述せる如く圃上にて生葉除去と共に男子主として之を行ふ。

（ロ）基部木質部分離　本項は前項處理後便宜の場所に運び女子之に從事するものにして、手を以て殘餘の木質部を分離し次法に移す。

（ハ）乾燥及結束　木質部と分離せる皮部は表裏の別なく地上に擴げ二三日間乾燥し十分なるに至れば一束六七斤內外の小束に結束し、後小把八束位重量四五十斤乃至五六十斤長さ五尺內外の大束となし、三ケ所を結束して販賣用に供す。

（二）北投堡

麁仔寮庄附近は幼麻製造をなすこと前章に記述せるが如し卽ち次の如し。

（イ）木質部分離　本項分離方法は嘉義西堡と同一にして女子之に從事す。

（ロ）剝皮　男女の別なく從事するものにして黃麻刀を以て剝皮すること嘉義西堡と同一なり。

（ハ）乾燥及結束　地上或は適宜の方法にて一二日間乾燥し六斤の小束に結束したる後大束五十斤位となし四ケ所を結縛して販賣用に供す。

第六節　印度に於ける黃麻製造法

收穫後脫葉せる生莖を浸水池に浸漬前豫め水質の如何を研究し置くものとす。印度にて鐵分を含有する水は纖維を赤變するものなりとて如斯浸水池は之を避け良質の水を選みて浸漬するを良とす。而して流水（纖維の品質優良なり）或は瀦水（纖維の品質前者に比し劣れり）中に根梢部を交互に重疊浸漬し、材木を横たへ生莖の水上に浮揚するを防ぎ、其儘放置して腐熟せしむ。浸水期間は水質及品種により或は氣溫の如何等によりて差異あるも、普通十日乃至二十五日間位を適度とす。浸

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

様時々浸水池を見廻はるを必要とす、又紅皮種と青皮種とを混じて浸水する時は青皮種は紅皮種の莖稈部其他より分解浸出する著色液のため汚染し、品位を劣惡ならしむるものとなし、別々に浸水す。又開花前と開花後に收穫せるものある時は之を混合せざるを良とす。之れ兩者纖維の品位を異にすればなり。

斯くして浸水全きに至れば就業者は浸水池中に入り莖稈部を打ち付け、木質部と纖維とを分離するもの及槌にて全莖を打ち碎き纖維を分離する方法ありと雖、最も廣く行はるゝ方法は莖稈部を槌にて叩きつゝ纖維の分離を容易ならしめ、一莖宛木質部と纖維とを分離し一握十分なるに至れば之を水面に打ち付け、不純物を除去したる後更に水面に擴げ十分不純物を除去洗滌したる後水を絞りて之を竹に結縛し、二三日間陽乾し直に一梱百八十基瓦となし、市場に搬出するものとす。其他尚機械分離を行ふ方法ありと雖生產費の不廉なると純纖維を得る能はざる缺點あるを以て、浸水法は例令原始的製法なるにも拘はらず生產費の廉なると直に純纖維を得るの利益あるは勿論地方農家の製造にも適するを以て、現今に於ても尙印度各地に行はるゝ所以なり。以上製出纖維優劣等級の標準とも稱すべきは色合、光澤の有無良否長短、剛柔の齊否如何及纖維洗滌の精粗如何により決定せらるゝものとす。

以上製法によりて製出せる纖維は其品位如何により各種の名稱を附し以て優劣を示し取引上の便に供せり即ち次の如し。

(一)Superior First 黃麻纖維中最上優良品にして一俵四百封度中にCと稱するもの及Dと稱するものの各二百封度宛を各別に壓搾したるものとす。本種に屬するものは帆布(カンバス)の如き上等

品の製作用に供せらるゝを以て Hessian Silk とも稱せらる。

(二)Firrt 本種中には2號及3號との二種ありて前種と同じく一俵四百封度の內二百封度宛各別に一俵中に壓搾せるものにして、一名 Crack と稱し、黃麻纖維中の標準品なり。

(三)Daccas 前種に次ぐ纖維にして一俵四百封度中に2號及3號品を各二百封度を各別に壓搾すること前種に異らず。

(四)Lightning 2號及3號品を一俵四百封度中に壓搾すること前種に異らず。

(五)Mangos 2號及3號品を混じ壓搾すること前種に異らず。

(六)Heart. 2號及3號品を混じ壓搾すること前種に異らす。

(七)Good Daisee 一俵四百封度中A八十封度B二百四十封度C八十封度を各別に壓搾す。

以上七種を總稱して Group. 物と稱す。此外尙 Cutting 及 Rejection と稱するものあり。卽ち Cutting と稱するものは莖の基部五六寸に切り捨てたるものより製造せるものにして前記 Group 物の中何れかと混合使用す。又 Rejection と稱するは前記 Group 物の何れにも屬すること能はざる下等品を總稱せるものにして使用の際 Group 物中に混合す。(續)

第七章　臺灣主要產地に於ける黃麻甲當栽培製造收支計算

農作物栽培製造及加工等に關し農民に就き之が經濟上の諸調査を遂げんとするや事甚だ至難の業なりとす。卽ち同一地に於ける同一作物と雖尙相一致符合せざるは勿論、兩者逕庭甚しく信僞其何れなるやを疑はしめ、到底之が比較對照だもなし得ざるが如き事實を發見すること一再ならざるは屢〻吾人の經驗する處なり。之れ民度習慣及方式を異にすると計數の不備不完なるは勿論凡て目測

見當に依り打算判斷するを以てなり。加ふるに經濟調査をなすもの凡て稅務官吏と誤信し、或は附加稅を課するにあらざるやを疑ひ生産利益の最少額を以て之が最上極限となす等其正鵠を缺く主因なりとす。以下各主要産地に於ける本調査は特に以上の諸點に注意し最上最下を避け可成中位を採り、取捨參酌し以て完璧を期せんことを努めたるも尚未だ十分悉さざる點甚だ多し。唯栽培の條下と比較對照せば本島に於ける黃麻栽培の大體を推知するに足らん。

第一節　嘉義廳下に於ける黃麻甲當栽培製造收支計算

(イ)嘉義西堡湖仔內庄(吳廷、羅益富)

種目	金額	數量	單價	備考
收入計	一九五・〇〇〇円	―	―	
內譯				
幼麻	一九五・〇〇〇円	三・〇〇〇斤	百斤 六・五〇〇円	
支出計	九九・七〇〇	―	―	
內譯				
種子	二・〇〇〇円	〇・〇四〇石	一升 〇・五〇〇円	
肥料(土糞)	三・二〇〇	八車 (八・〇〇〇)斤	一車 〇・四〇〇	
施肥	〇・八〇〇	男 二人	男 〇・四〇〇	
犂耕	六・四〇〇	牛付男 八人	牛付男 〇・八〇〇	犂耕二回とし一回四人とす

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

種目	金額	数量	単價	備考
整地 手耙	一·六〇〇	同 二人	同 〇·八〇〇	手耙二回とし一回一人とす
整地 刈耙	一·六〇〇	同 二人	同 〇·八〇〇	刈耙二回とし一回一人とす
播種	二·四〇〇	同 二人 男 二人	同 〇·八〇〇 男 〇·四〇〇	作條切り播種及覆土とす
除草及中耕	一·六〇〇	牛付男 二人	牛付男 〇·八〇〇	
間引	一·五〇〇	女 一〇人	女 〇·一五〇	
培土	一·六〇〇	牛付男 二人	牛付男 〇·八〇〇	
收穫調製	二三·〇〇〇	男 五〇人 女 二〇人	男 〇·四〇〇 女 〇·一五〇	男は收穫女は乾燥及結搏とす
小作料	四六·〇〇〇	—	—	五六則田とし一箇年租穀籾三十石とし一石四圓六十錢にして半期分
農具損料	三·〇〇〇	—	—	
雜費	五·〇〇〇	—	—	

差引純益金九十五圓三十錢

備考 收入中木賃部を計上せざるは就業者に分與し賃銀を支拂はざるを以て調製費と差引き何れにも計上せず。

（ロ）打猫北堡大埤頭庄（張種頭外二名）

種目	金額	数量	單價	備考
收入計	一三六·〇〇〇円	—	—	
内譯 租蔗	一三六·〇〇〇円	三·五〇〇斤	百斤 三·六〇〇円	
支出計	九一·九〇〇	[illegible]	—	

内譯

種子	二・一〇〇円	〇・〇三五石	一升 〇・六〇〇円	
肥料（土糞）	四・五〇〇	九車（九、〇〇〇斤）	一車 〇・五〇〇	
施肥（元肥）	〇・八〇〇	男 二人	男 〇・四〇〇	
施肥（追肥）	〇・八〇〇	同 二人		
整地（犂耕）	七・九二〇	牛付男 一二人	牛付男 〇・六六〇	共に三回宛犂、耙耕にするものとす
整地（刈耙）	三・九六〇	同 六人	右 同	
		右同 二人	右 同	
播種	二・一二〇	男 二人	男 〇・四〇〇	作條切り播種及覆土とす
除草及中耕	一・三二〇	牛付男 二人	牛付男 〇・六六〇	
間引	一・五〇〇	女 一〇人	女 〇・一五〇	
培土	一・九八〇	牛付男 三人	牛付男 〇・六六〇	
收穫及調製	一四・四〇〇	男 三六人	男 〇・四〇〇	收穫刈取男二十六人乾燥、葉の除去及結搏男十人とす
小作料	四六・〇〇〇	―	―	
農具損料	二・〇〇〇	―	―	
雜費	二・五〇〇	―	―	病害蟲、驅除木質部運搬及其の他

差引純益金三十四圓十錢

備考　木質部を計上せざる理由嘉義西堡に準す。

（八）龍蛟潭堡義竹圍庄（翁賞、翁春、翁登臣）

種目	金額	數量	單價	備考
收入計	六七・五〇〇円	―	―	

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

項目	金額	人員・數量	員數	單位	單價	摘要
幼麻	六七・五〇〇円		一・五〇〇斤	百斤	四・五〇〇円	
内譯						
支出計	五八・三五〇		—		—	
内譯						
種子	二・〇〇〇円		.〇・〇四〇石	一升	〇・五〇〇円	
肥料（土糞）	七・五〇〇	十五車	(五、〇〇〇)斤	一車	〇・五〇〇	
施肥	〇・七〇〇	男	二人	男	〇・三五〇	
整地 犂耕	五・六〇〇	牛付男	八人	牛付男	〇・七〇〇	
整地 石礴	一・四〇〇	同	二人	同		
播種	二・八〇〇	牛付男 男	二人 二人	同 男	〇・三五〇	
除草及中耕	一・四〇〇	牛付男	二人	牛付男	〇・七〇〇	耙仔にて除草及中耕一同に行ふ
間引	二・四〇〇	女	二〇人	女	〇・一二〇	
培土	二・八〇〇	牛付男	四人	牛付男	〇・七〇〇	
收穫及調製	三・二五〇	牛付男 男	五人 二五人	同 男	〇・三五〇	
小作料	一五・〇〇〇		—		—	一箇年三十圓さし半期分
農具損料	二・〇〇〇		—		—	
雜費	二・五〇〇		—		—	

差引　純益金九圓十五錢

備考　木質部より計上せざる理由嘉義西堡に準す。

第二節　臺中廳下に於ける黄麻甲當栽培製造收支計算

(イ) 武西堡 崙仔庄（黃定） 羅厝庄（黃榮頭）

種目	金額 田地	金額 畑地	數量 田地	數量 畑地	單價	備考
收入計	円 一三一・一〇〇	円 一二四・〇〇〇	—	—	—	
内譯						
幼麻	円 一三一・一〇〇	円 一二四・〇〇〇	斤 二,三〇〇	斤 二,〇〇〇	円 五・七〇〇	
支出計	一〇六・九五〇	九一・七五〇	—	—	—	
内譯						
種子	円 三・五〇〇	円 三・五〇〇	石 〇・〇五〇	石 〇・〇五〇	一升 円 〇・七〇〇	
肥料 土糞	一・四〇〇	一・四〇〇	斤 二・〇〇〇	斤 二・〇〇〇	百斤 〇・〇七〇	
肥料 人糞尿	二〇・〇〇〇	二〇・〇〇〇	二・〇〇〇	二・〇〇〇	百斤 一・〇〇〇	
施肥	二・一〇〇	二・一〇〇	男 六人	男 六人	男 〇・三五〇	
整地 犂耕	八・四〇〇	五・六〇〇	牛付男一二人	牛付男 八人	同 〇・七〇〇	
整地 手耙	一・四〇〇	一・四〇〇	同 二人	同 二人	同 〇・七〇〇	
整地 石輪	五・六〇〇	四・二〇〇	同 八人	同 六人	同 〇・七〇〇	
整地 刈耙	一・四〇〇	一・四〇〇	同 二人	同 二人	同 〇・七〇〇	
播種	二・一〇〇	二・一〇〇	牛付男 二人	同 上	牛付男 〇・七〇〇	
			男 二人	同 上	男 〇・三五〇	
除草及中耕	一・四〇〇	一・四〇〇	牛付男 二人	同 上	牛付男 〇・七〇〇	
間引	三・〇〇〇	三・〇〇〇	女 二〇人	女 二〇人	女 〇・一五〇	間引を兼ね除草を行ふ

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

種目	金額 田地	金額 畑地	數量 田地	數量 畑地	單價	備考
培土	一・四〇〇	一・四〇〇	牛付男 二人	同	上牛付男 〇・七〇〇	
收穫及調製	一三・二五〇	一三・二五〇	男 三五人	同	上男 〇・三五〇	
小作料	三八・五〇〇	二七・五〇〇	籾 八・七五〇石	六・二五〇	十石 四〇・〇〇〇	
農具損料	二・〇〇〇	二・〇〇〇	—	—	—	
雜費	二・五〇〇	二・五〇〇	—	—	—	

差引純益金　田地二十四圓十五錢
　　　　　　畑地二十二圓二十五錢

備考　木質部に計上せざるは嘉義西堡と同一理由による。

(ロ) 東螺東堡田尾庄 （王化成、陳訪）

種目	金額 田地	金額 畑地	數量 田地	數量 畑地	單價	備考
收入計	一六六・七〇〇円	一七一・〇〇〇円	—	—	—	
內譯						
幼蔗	一六六・七〇〇円	一七一・〇〇〇円	卅、一〇〇斤	卅、〇〇〇斤	五、七〇〇円	
出支計	一四七・〇五〇	一三八・八〇〇	—	—	—	
內譯						
種子	六・〇〇〇円	六・〇〇〇円	〇・〇五〇石	〇・〇五〇石	升一 一・二〇〇円	
肥料（土糞）	二〇・〇〇〇	二〇・〇〇〇	二五、〇〇〇斤	二五、〇〇〇斤	千斤 〇・八〇〇	

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

種目	金額（田）	金額（畑）	數量（田）	數量（畑）	單價	備考
施肥（大豆粕	一八・〇〇〇	一八・〇〇〇	一二枚	一二枚	一枚 一・五〇〇	
施肥	二・四〇〇	二・四〇〇	男 六人	男 六人	男 〇・四〇〇	
整地 犂耕	九・〇〇〇	七・二〇〇	牛付男 一五人	同 一二人	牛付男 〇・六〇〇	
整地 手耙	二・四〇〇	二・四〇〇	牛付男 四人	同 四人	同 〇・六〇〇	
整地 石輪	六・〇〇〇	六・〇〇〇	牛付男 一〇人	同 一〇人	同 〇・六〇〇	
整地 刈耙	二・四〇〇	一・二〇〇	牛付男 四人	同 二人	同 〇・六〇〇	
播種	五・六〇〇	五・六〇〇	同 四人 男 八人	同 四人 男 八人	同 〇・六〇〇 男 〇・四〇〇	
除草及中耕	五・七〇〇	五・七〇〇	牛付男 二人 女 三〇人	同上 同上	牛付男 〇・六〇〇 女 〇・一五〇	
間引	三・七五〇	三・七五〇	女 二五人	女 二五人	女 〇・一五〇	
培土	一・八〇〇	一・八〇〇	牛付男 三人	同上	牛付男 〇・六〇〇	
收穫及調製	一六・〇〇〇	一二・〇〇〇	男 四〇人	男 三〇人	男 〇・四〇〇	
小作料	四三・〇〇〇	三二・二五〇	籾 一〇・〇〇〇石	七・五〇〇	十石 四三・〇〇〇	小作耕半期分を計上せり
農具損料	二・五〇〇	二・〇〇〇	—	—	—	
雜費	二・五〇〇	二・五〇〇	—	—	—	

差引純益金　田地二十九圓六十五錢
　　　　　　畑地四十二圓二十錢

備考　木質部を計上せざるは嘉義西堡と同一理由による。

（ハ）臺中廳農會鹿港支會にて管內二林上堡西勢厝庄中等畑に就き調査せしものを參考のため擧ぐれば左の如し。

種目	金額	數量	單價	備考

科目	金額	數量	單價	摘要
收入計	一四八・六〇〇円	—	—	
内譯				
纎維	一四四・〇〇〇円	一、六〇〇斤	百斤 八・〇〇〇円	
木質部	四・六〇〇	二、三〇〇	〇・二〇〇	
支出計	一一六・四九〇	—	—	
内譯				
種子	三・二五〇円	〇・〇五〇石	一升 〇・六五〇円	
肥料 土糞	二〇・三〇〇	一五・〇〇〇斤	百斤 〇・〇五〇	
肥料 過燐酸石灰		八叺	一叺 一・六〇〇	
整地	二二・〇〇〇	男二五人 牛二〇頭	男 〇・四〇〇 牛 〇・六〇〇	
播種	九・〇〇〇	男一五人 牛五頭	男 〇・四〇〇 牛 〇・六〇〇	
除草中耕間引	二〇・〇〇〇	男五〇人	男 〇・四〇〇	
其の他管理	一・二〇〇	男三人	男 〇・四〇〇	
收穫	一〇・〇〇〇	男二五人	右同	
乾燥及調製	二〇・四〇〇	男三一人 女四〇人	男 〇・四〇〇 女 〇・二〇〇	乾燥に男六人を要す
公租	四・三九〇	—	—	地租、附加税、農會費及土地整理費等合計せるもの
農具損料	二・〇〇〇	—	—	
雜費	四・四〇〇	—	—	害蟲驅除に男十人石油二升を要するものとして計算せり

差引純益金三十一圓六十六錢

（二）臺中廳農會二林支會に於て中畑に付（調査地不明）調査せるものを參考のため擧ぐれば次の如し。

種目	金額	數量	單價	備考
收入計	七九·〇〇〇円	—	—	
內譯				
纖維	七五·〇〇〇円	一·〇〇〇斤	百斤 七·五〇〇円	
木質部	四·〇〇〇	二·〇〇〇	〇·二〇〇	
支出計	七九·一〇〇	—	—	
內譯				
種子	二·四〇〇円	〇·一五〇石	一升 〇·一六〇円	
肥料 土糞	三七·〇〇〇	八〇〇〇斤	千斤 〇·八〇〇	
肥料 大豆粕		一八枚	一枚 一·七〇〇	
施肥	三·七〇〇	牛 二頭	牛 〇·四〇〇	大豆粕粉碎九十錢として計上せり
		男 五人	男 〇·四〇〇	
整地 犂耕	四·〇〇〇	牛付男 四人	牛付男 〇·八〇〇	
整地 耙耕		同 一人	同	
播種	一·二〇〇	牛 一、五頭	牛 〇·四〇〇	
		男 一、五人	男 〇·四〇〇	
除草中耕及間引	二·八〇〇	牛 一、五頭	同 〇·四〇〇	
		男 五、五人	同 〇·四〇〇	
收穫	八·〇〇〇	男 二〇人	男 〇·四〇〇	

製造	二〇・〇〇〇 男	五〇人 同	〇・四〇〇

差引純益金十錢

第三節　臺南廳下に於ける黃麻甲當栽培製造收支計算

(イ)長興下里太子廟庄　（黃澤）

種目	金額	數量	單價	備考
收入計	一五八・七二〇円	—	—	
內譯				
粗麻	一五八・七二〇円	四・〇〇〇斤 百斤	三・九六八円	
支出計	一〇四・二四〇	—	—	
內譯				
種子	二・一〇〇円	〇・〇七〇石 一升	〇・三〇〇円	
肥料 土糞	二〇・〇〇〇	四〇・〇〇〇斤 千斤	〇・五〇〇	
肥料 人糞尿	四・〇〇〇	四・〇〇〇 千斤	一・〇〇〇	
施肥	三・六〇〇 男	九人 男	〇・四〇〇	
整地 犂耕	一〇・五〇〇 牛付男	一五人 牛付男	〇・七〇〇	
整地 刈耙	二・八〇〇 同	四人 同	〇・七〇〇	
整地 手鍬	二・八〇〇 同	四人 同	〇・七〇〇	

播種	三·〇〇〇	同	二人	男	〇·七〇〇
		男	四人	同	〇·四〇〇
除草及中耕	三·八〇〇	牛付男	二人	牛付男	〇·七〇〇
		男	六人	男	〇·四〇〇
間引	一·八〇〇	女	一五人	女	〇·一二〇
培土	一·四〇〇	牛付男	二人	牛付男	〇·七〇〇
收穫及調製	二三·四四〇	男	五五人	男	〇·四〇〇
		女	一二人	女	〇·一二〇
小作料	二〇·〇〇〇		—		—
農具損料	二·五〇〇		—		—
雜費	二·五〇〇		—		—

差引純益金五十四圓四十八錢

備考　木質部を計上せざるは嘉義西堡と同一理由による。

(ロ) 歸仁北里歸仁北里庄 （劉分外二名）

種目	金額 田地	金額 畑地	數量 田地	數量 畑地	單價	備考
收入計	円 一四四·〇〇〇	円 一〇八·〇〇〇	—	—	—	
內譯						
粗麻	円 一四四·〇〇〇	円 一〇八·〇〇〇	四,〇〇〇斤	三,〇〇〇斤	百斤 三·六〇〇円	
支出計	一三九·七〇〇	一一六·七〇〇	—	—	—	
內譯						

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

種子	円 七·〇〇〇	円 七·〇〇〇	石 〇·一〇〇	石 〇·一〇〇	一升 円 〇·七〇〇
肥料 土糞	二八·〇〇〇	二八·〇〇〇	四〇·〇〇〇 斤	四〇·〇〇〇 斤	千斤 〇·七〇〇
肥料 人糞尿	二·四〇〇	二·四〇〇	二·〇〇〇	二·〇〇〇	同 一·二〇〇
施肥	二·四〇〇	二·四〇〇	男 六人	男 六人	男 〇·四〇〇
整地 犂耕	一二·〇〇〇	一〇·〇〇〇	牛付男 一二人	牛付男 一〇人	牛付男 一·〇〇〇
整地 刈耙	五·〇〇〇	三·〇〇〇	同 五人	同 三人	同 一·〇〇〇
整地 手耙	二·一〇〇	二·一〇〇	同 三人	同 三人	同 一·〇〇〇
播種	三·二〇〇	三·二〇〇	同 二人 男 三人	同	同 一·〇〇〇 男 〇·四〇〇
除草及中耕	三·六〇〇	三·六〇〇	牛付男 二人 男 四人	同	牛付男 一·〇〇〇 男 〇·四〇〇
間引	三·〇〇〇	三·〇〇〇	女 一五人	同	女 〇·二〇〇
培土	三·〇〇〇	三·〇〇〇	牛付男 三人	同	牛付男 一·〇〇〇
收穫及調製	二四·〇〇〇	二〇·〇〇〇	男 六〇人	男 五〇人	男 〇·四〇〇
小作料	三〇·〇〇〇	二五·〇〇〇	—	—	—
農具損料	二·〇〇〇	二·〇〇〇	—	—	—
雜費	二·〇〇〇	二·〇〇〇	—	—	—

差引損益金　田地十四圓三十錢益
　　　　　　畑地八圓七十錢損

備考　木質部を計上せざるは嘉義西堡と同一理由による。

（八）臺南廳農會にて畑地栽培に就き調査（調査地不明）せるものを參考のため擧ぐれば次の如し。

種目	金額	數量	單價	備考
收入計	円 四六・四四〇	—	—	
内譯				
纖維	円 四五・〇〇〇	斤 一,五〇〇	百斤 円 三・〇〇〇	
木質部	一・四四〇	一,二〇〇	〇・一二〇	
支出計	一一三・六七〇	—	—	
内譯				
種子	円 〇・二七〇	石 〇・〇三〇	一升 円 〇・〇九〇	
肥料（土糞）	一七・五〇〇	斤 三五,〇〇〇	千斤 〇・五〇〇	人糞尿を施す時は千斤一圓のもの六千斤を施用す
整地	二七・〇〇〇	牛付男 三〇人	牛付男 〇・九〇〇	
播種	六・五〇〇	同 一人 男 一四人	同 〇・九〇〇 男 〇・四〇〇	
手入	一〇・四〇〇	男 二六人	同 〇・四〇〇	
收穫及調製	一〇・〇〇〇	男 一〇人 女 五〇人	男 〇・四〇〇 女 〇・一二〇	田地なる時は男二十人（八圓）を要す
小作料	四〇・〇〇〇	—	—	
農具損料	二・〇〇〇	—	—	

差引損益金六十七圓二十三錢損

第四節　南投廳下に於ける黄麻甲當栽培製造收支計算

（イ）南投堡林仔庄（王金杆、王矮高）

種目	金額	數量	單價	備考
收入計	一四〇・〇〇〇円	—	—	
內譯				
粗麻	一四〇・〇〇〇円	四・〇〇〇斤	三・五〇〇円	
支出計	一三九・四〇〇	—	—	
內譯				
種子	七・五〇〇円	〇・〇七五石	一升 一・〇〇〇円	
肥料 土嚢	十・〇〇〇	一〇・〇〇〇斤	千斤 〇・六〇〇	
肥料 大豆粕	二三・五〇〇	一五枚	一枚 一・五〇〇	
施肥	三・七〇〇	牛付男 三人 男 四人	牛付男 〇・七〇〇 男 〇・四〇〇	
整地 犂耕	九・一〇〇	牛付男 一三人	牛付男 〇・七〇〇	水稻跡地の整地にして畑地にありては尚犂耕回數を減ずるものとす
整地 刈耙	二・八〇〇	牛付男 四人	同 〇・七〇〇	
整地 手耙	一・四〇〇	同 二人	同 〇・七〇〇	
播種	二・九〇〇	同 三人 男 二人	同 〇・七〇〇 男 〇・四〇〇	
除草及中耕	三・七〇〇	牛付男 三人 男 四人	牛付男 〇・七〇〇 男 〇・四〇〇	
間引	三・〇〇〇	女 二五人	女 〇・一二〇	

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

種目	金額 粗麻	金額 幼麻	數量 粗麻	數量 幼麻	單價	備考
培土	一・八〇〇	牛付男 男	二人牛付男 一人男		〇・七〇〇 〇・四〇〇	
收穫及調製	二〇・〇〇〇	男	五〇人男		〇・四〇〇	
小作料	四〇・〇〇〇		—		—	
農具損料	二・〇〇〇		—		—	
雜費	二・〇〇〇		—		—	

差引純益金十圓六十錢

備考　木質部を計上せざるは嘉義西堡と同一理由による。

(ロ) 北投堡匏仔寮庄 (李迯外二名)

種目	金額 粗麻	金額 幼麻	數量 粗麻	數量 幼麻	單價	備考
收入計	二一四・五〇〇	二四七・五〇〇	—	—	—	
內譯						
纖維	円 二一四・五〇〇	円 二四七・五〇〇	斤 五、五〇〇	斤 四、五〇〇	粗麻百斤 三・九〇〇 幼麻百斤 五・五〇〇	
支出計	一六二・九〇〇	一七二・九〇〇	—	—	—	
內譯						
種子	円 六・〇〇〇	円 六・〇〇〇	石 〇・〇七五	石 〇・〇七五	一升 円 〇・八〇〇	

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

肥料	土糞	二一・〇〇〇	二一・〇〇〇	三〇・〇〇〇斤	同	千斤 〇・七〇〇
	人糞尿	一五・〇〇〇	一五・〇〇〇	一〇・〇〇〇	同	千斤 一・五〇〇
施肥		二・八〇〇	二・八〇〇	男 七人	同	男 〇・四〇〇
整地	犂耕	一六・〇〇〇	一六・〇〇〇	牛付男 二〇人	同	牛付男 〇・八〇〇
	刈耙	四・〇〇〇	四・〇〇〇	同 五人	同	同 〇・八〇〇
播種		六・〇〇〇	六・〇〇〇	同 五人 男 五人	同	同 〇・八〇〇 男 〇・四〇〇
除草及中耕		五・六〇〇	五・六〇〇	牛付男 四人	同	牛付男 〇・八〇〇
間引		七・五〇〇	七・五〇〇	男 六人 女 三〇人	同	男 〇・四〇〇 女 〇・二五〇
培土		四・〇〇〇	四・〇〇〇	牛付男 四人 男 二人	同	牛付男 〇・八〇〇 男 〇・四〇〇
收穫及調製		二〇・〇〇〇	二九・〇〇〇	男 五〇人	男 六人 女 二〇人	同 〇・四〇〇 女 〇・二五〇
小作料		五〇・〇〇〇	五〇・〇〇〇	—	—	—
農具損料		二・五〇〇	三・〇〇〇	—	—	—
雜費		二・五〇〇	三・〇〇〇	—	—	—

差引純益金　粗麻五十一圓六十錢
　　　　　　幼麻七十四圓六十錢

備考　木質部を計上せざるは嘉義西堡と同一理由による。

（ハ）南投廳農會にて田地栽培に就き調査（調査地不明）せるものを參考のため擧げんに次の如し。

種目	金額 自作	金額 小作	數量 自作	數量 小作	單價	備考
收入計	三四〇・〇〇〇円	三四〇・〇〇〇円	—	—	—	
內譯						
纖維	三二五・〇〇〇円	三二五・〇〇〇円	五・〇〇〇斤	五・〇〇〇	百斤 六・五〇〇円	
木質部	一五・〇〇〇	一五・〇〇〇	五・〇〇〇	同上	同 〇・三〇〇	
支出計	二二四・一〇六	二九三・五〇〇	—	—	—	
內譯						
種子	一〇・〇〇〇円	一〇・〇〇〇円	〇・〇五〇石	〇・〇五〇	一升 二・〇〇〇円	
肥料 土糞	九・七五〇	九・七五〇	一五・〇〇〇斤	同上	千斤 〇・六五〇	
肥料 大豆粕	六〇・〇〇〇	六〇・〇〇〇	三〇枚	同上	一枚 二・〇〇〇	
役畜費	六・〇〇〇	六・〇〇〇	水牛 二〇頭	同上	水牛 〇・三〇〇	
整地及播種人夫	五〇・〇〇〇	五〇・〇〇〇	男 一〇〇人	同上	男 〇・五〇〇	
間引及其他手入費	一〇・〇〇〇	一〇・〇〇〇	男 二〇人	同上	同 〇・五〇〇	
收穫製造	七〇・〇〇〇	七〇・〇〇〇	男 一四〇人	同上	同 〇・五〇〇	
農具損料	〇・七五〇	〇・七五〇	—	—	—	
借地料	—	七五・〇〇〇	—	—	—	稻作に準す卽ち租穀年三十石（百五十圓）の半期分
地租及其他	五・六〇六	—	—	—	—	地租、附加税、土地整理費及農會費の半期分

水租	二.〇〇〇	二.〇〇〇	ー	ー	ー 田地栽培なるを以て水租四圓を等分せるもの

差引純益　自作百十五圓八十九錢四厘

　　　　　小作四十六圓五十錢

第八章　結論

敍上各章を概括するに本島現在の黄麻作付面積をして將來今日以上に擴張せしむるは地方的事情を異にするより或は他重要作物との關係其他種々なる原因により事業或は難事ならんも、多少の進步發展は決して期待せられざるにあらざるべし。然れども作付面積を增進せしむるの問題は今暫く之を措きて他日に讓り、今日吾人の最も注意と研究とを要する問題は他なし同面積より如何なる方法手段を以て倍額乃至以上の產額を擧げ得るやにありとす。

第五章第一節中當場に於ける試驗成績及第二節以下第五節に至る地方主要產地に於ける成績とを比較對照せば改良の餘地一目瞭然たるべし。而して兩者間に如斯格段なる逕庭を生ぜる原因果して那邊に存在するや、之が探硏は本問題解決に當り必要缺くべからざる必須事項の一たらざるべからず。

左に兩者收量に差異を生ずる主なる原因の一二實例を示さん。

(一)栽培品種の優劣

(二)土地選定の適否

(三)施肥量の多寡

臺灣省農業試驗所
圖書室
應用動物系

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

（四）播種後に於ける管理手入の精粗

之を要するに地方農家の粗放的栽培法は兩者收量懸隔の一大原因なりとす。故に劣等品種に代ふる優良品種を以てし、且可成灌漑の便ある土地を選定し、施肥用量をして今日以上たらしむるに於ては例令作付面積現在以上に增加せざるにせよ、產額の增加期して待つべきのみ。尙進んで製造法の如きも浸水に便なる地方には製麻會社をして製纖所を設立せしめ、會社をして有用に活動せしめ間接に農民を指導するに至らば從來の製造法を生莖浸水法に改むるに何等撞著することなく、一は以て各自の福利を增進するを得べく一は以て原料苧麻輸入年額二百萬圓以上に膨張せる島外輸入額を防遏するを得べし。兩者何れも本島殖產界のため看過すべからざる問題なりとす。

終りに當場試驗の結果優良品種として推奬するに足るもの次の如し。

一、淡紅皮種
二、深紅皮種
三、印度白皮種
四、晩生青種
五、短莢青種

以上五品種にして淡紅皮種及深紅皮種は共に本島在來幼麻製造に、他三品種は生莖浸水法による精製纖維製造に適せり。淡紅皮種及深紅皮種の二品種決して浸水法に適せざるにあらず。却つて收量の如き他三品種に優ると雖纖維品質他三品種に劣るを以て用途及目的より之を粗製纖維及精製纖維製造用の二種に區別せば前二品種を幼麻製造用とし、他三品種を精製纖維製造用として栽培するを有利となすなり。（完）

Taiwan
053

BULLETIN NO. 126. MARCH, 1918.

AGRICULTURAL EXPERIMENT STATION

Government of Formosa.

Cultivation of Jute in Formosa.

By

Katsujiro Hosoda.

Published by the Station.
Taihoku, Formosa,
Japan.